Syllabus
シラバス

２０２６年度

Nagasaki
University
School
of
Dentistry

長崎大学歯学部

歯学部の授業内容は歯科大学学長・歯学部長会議で定めた「歯科医学教授要綱」にそって行われており、さらに授業方法は担当教員一人ひとりの創意、工夫に委ねられている。したがって、それぞれの科目の授業の特色を知って出席することが、授業を実り多いものにするのに欠かせない。

「シラバス」syllabus（授業計画書）とは、学生諸君が初めて出会う授業に戸惑わないよう、その内容や方法をあらかじめ伝え、一方通行ではない、大学らしい授業を行うために各担当者により執筆されたガイドブックである。

ここに盛られているのは、授業の概要及び位置づけ、授業の到達目標、授業の方法、教科書と参考書、成績評価の方法、注意事項、それに順を追った授業計画である。「シラバス」に目を通すことによって、担当教員がこの授業によって何を伝えようとしているのか、どういう進め方をするのか、学生に何を準備して授業に参加してほしいと期待しているかがわかるはずである。授業を受ける前に熟読すれば、効果的な予習の役に立ち、また復習や試験勉強の格好のガイドにもなる。教員の要求する準備をして授業に臨めば、共通のベースに立脚した質疑応答が活発に行われ、双方向的な授業の展開が可能になるだろう。

さらに、全学的な授業評価アンケートも実施しているので、学生側からの意思表示もより明確にできると考える。

なお、臨床実習を開始するに十分な知識の有無を問う共用試験（CBT・OSCE）は、教育ガイドラインである歯学教育モデル・コア・カリキュラムに対応し実施されている。

臨床実習に関しては、別に用意した詳細な「臨床開始前実習の手引」及び「臨床実習の手引」が「シラバス」に相当するので、本冊子には含まれていない。

授業を受けるにあたって、該当科目の「シラバス」を十分に活用し、下記の歯学部の理念を念頭に、教育目標を達成してほしい。

歯学部の理念

基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を修得し、今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓くとともに社会に信頼される歯科医師および研究者を養成する。

歯学部の教育目標

(1)　責任感、社会性を持ち、歯科医師としての倫理観と豊かな人間性を身につけている。
(2)　コミュニケーション能力と協調性を身につけている。
(3)　生命科学へのリサーチマインドを身につけている。
(4)　離島等の地域歯科医療について、保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる。
(5)　先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけている。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、各授業の担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談ください。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

（TEL）095-819-2006　（E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp

歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版） 概要

〇学生が卒業時までに身に付けておくべき、必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
〇学生の学修時間数の6割程度を目安としたもの
〇「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

【各大学のアドミッション・ポリシー】　【各大学のカリキュラム・ポリシー】　【各大学のディプロマ・ポリシー】

多様なニーズに対応できる歯科医師の養成

A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力

- 医学知識と問題対応能力
- 診療技能と患者ケア
- コミュニケーション能力
- チーム医療の実践
- プロフェッショナリズム
- 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- 科学的探究
- 社会における医療の実践
- 医療の質と安全の管理

B 社会と歯学

- 健康の概念
- 予防と健康管理
- 健康と社会、環境
- 疫学・保健医療統計

C 生命科学

- 基礎自然科学
- 生命の分子的基盤
- 人体の構造と機能
- 感染と免疫
- 病因と病態
- 生体と薬物

D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）

- 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途
- 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法

E 臨床歯学

- 診療の基本
- 口腔・顎顔面領域の常態と疾患
- 歯と歯周組織の常態と疾患
- 矯正歯科・小児歯科治療
- 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患
- 医師と連携するために必要な医学的知識

F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））

- 診療の基本
- 基本的診察法
- 基本的臨床技能

G 診療参加型臨床実習

- 診療の基本
- 基本的診察法
- 基本的臨床技能
- チーム医療・地域医療
- 患者中心の医療
- （別表）臨床実習の内容と分類

診療参加型臨床実習開始前の「共用試験」CBT（知識）及びOSCE（技能・態度）

診療参加型臨床実習終了時の技能・態度評価

歯科医師法に基づく歯科医師国家試験（知識）

各大学の特色ある独自のカリキュラム（学生の学修時間数の4割程度）
※ 各大学が教育理念に基づいて設置する独自の教育内容（学生が自主的に選択できるプログラムを含む）

医学/歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの。
- 初版は平成13年3月に策定。医療を取り囲む環境変化に伴い改訂（平成19年度、22年度、28年度）。
- 学生が**卒業時までに身に付けておくべき必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）**に関する学修目標を**明確化**。
- 学生の学修時間数の**医学:3分の2程度、歯学:6割程度**を目安としたもの （残りは各大学の特色ある独自のカリキュラムを実施）。

キャッチフレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」



人口減地域の増加



新興感染症・災害リスクの増大





高齢化率の上昇

新規科学技術の台頭



「医師/歯科医師に求められる基本的な資質・能力」を共通化（赤字は新設）

PR. プロフェッショナリズム	**IT. 情報・科学技術を活かす能力**
GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢	CS. 患者ケアのための診療技能
LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	CM. コミュニケーション能力
RE. 科学的探究	IP. 多職種連携能力
PS. 専門知識に基づいた問題解決能力	SO. 社会における医療の役割の理解



令和８年度歯学部行事予定表

― 前　期 ―

学年開始	４月　１日（水）
授業開始（２～６年）	４月　１日（水）
入学式	４月　２日（木）
新入生学部オリエンテーション（１年）	４月　３日（金）
入学時ワークショップ（１年）	４月　４日（土）
授業開始（１年）	４月　６日（月）
臨床開始前実習（５年）	５月　７日（木）～１０月２日（金）
ＣＢＴ（５年）	６月１６日（火）
ＯＳＣＥ（５年）	７月２５日（土）
前期定期試験時間割発表	７月　９日（木）
授業終了（１～４年）	７月２８日（火）
授業終了（５年）	７月２４日（金）
定期試験期間（１年）	８月　３日（月）～　４日（火）
定期試験期間（２～４年）	７月２３日（木）～３１日（金）
定期試験期間（５年）	８月１７日（月）～２１日（金）
夏季休業（１年）	８月　５日（水）～　９月２５日（金）
夏季休業（２～４年）	８月　３日（月）～　９月２５日（金）
夏季休業（５年）	７月２７日（月）～　８月１４日（金）、 ８月２４日（月）～　９月１８日（金）
ＣＢＴ追再試験（５年）	８月　４日（火）
ＯＳＣＥ追再試験（５年）	８月２２日（土）
臨床知識理解度試験（６年）	８月１７日（月）～１８日（火）
臨床知識理解度試験追試験（６年）	８月１９日（水）～２０日（木）
追・再試験時間割発表（１～４年）	８月　７日（金）
追・再試験時間割発表（５年）	８月２４日（月）
追試験期間（１～４年）	８月１７日（月）～１８日（火）
追試験期間（５年）	８月２５日（火）～２６日（水）
再試験期間（１年）	８月２４日（月）～２５日（火）
再試験期間（２～４年）	８月２４日（月）～２６日（水）
再試験期間（５年）	８月３１日（月）～　２日（水）
ＣＳＸ（６年）	９月１０日（木）
ＣＳＸ追試験（６年）	９月２４日（木）
臨床知識理解度試験再試験（６年）	９月１４日（月）～１５日（火）
前期成績発表	９月の指定する日

― 後　期 ―

授業開始	９月２８日（月）
臨床実習（５年）	１０月　５日（月）～翌年度９月末
卒業認定試験（６年）	１０月２２日（木）～２３日（金）
解剖体慰霊祭	１０月２２日（木）
歯学部祭	１０月中旬～１１月下旬頃
卒業認定試験追再試験（６年）	１１月１２日（木）～１３日（金）
冬季休業（１～４年）	１２月２４日（木）～１２月３１日（木）
後期定期試験時間割発表	１月１９日（火）
授業終了（１～４年）	２月　１日（月）
定期試験期間（１年）	２月　２日（火）、８日（月）
定期試験期間（２～４年）	２月　２日（火）～８日（月）
追・再試験時間割発表（１～４年）	２月１０日（水）
追試験期間（１年）	２月１５日（月）
追試験期間（２～４年）	２月１２日（金）
再試験期間（１年）	２月２２日（月）
再試験期間（２～４年）	２月１７日（水）～１９日（金）
卒業式	３月２５日（木）
学年終了	３月３１日（水）
後期成績発表	３月の指定する日

令和8年度歯学部カレンダー（2～4年次）

前期：4月1日（水）～7月31日（金）
1Q：4月1日～6月3日（5月28日～29日を除く）
2Q：5月28日～7月31日（6月1日～3日を除く）

	日	月	火	水	木	金	土
R8年4月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	後期28	後期29	後期30			
回数	－	15	15	15	15	15	－

後期：9月28日（月）～2月8日（月）
3Q：9月28日～11月30日（11月25日～27日を除く）
4Q：11月25日～2月8日（11月30日を除く）

	日	月	火	水	木	金	土
9月	27	28	29	30	1	2	3
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
12月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
R9年1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
3月	28	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
回数	－	15	15	15	15	15	－

注：9月28日（月）は後期の授業開始日

休業日等（1/19(火)は共通テスト試験監督等振替、1/22(金)は学校推薦型選抜Ⅱ当日）

授業日

補講日（補講を実施しない場合は定期試験日として利用可能）

定期試験日

追試験日

再試験日

（令和8年度）歯学部授業時間割

（ 前 期 ）（ 1Q・2Q ）

曜日		校時	I 8:50–10:20	II 10:30–12:00	III 13:00–14:30	IV 14:40–16:10	V 16:20–17:50
		年次	1 8:50–9:50	2 10:00–11:00	3 11:10–12:10	4 13:00–14:00	5 14:10–15:10	6 15:20–16:20	7 16:30–17:30	8 17:40–18:40
月	1		歯科学のための物理科学（講3B）	細胞生物学入門Ⅰ（講3B）	歯学展望（講3B）	骨学及び同実習（歯解実・講3B・医2講・医1実）			教養教育：初年次セミナー（坂本）	
	2		教養教育							
	3			微生物学・口腔微生物学（講3A）		薬理学及び同実習（講3A・実5C）				
	4		歯科矯正学及び同実習（講6A・臨4B）			予防歯科学及び同実習（講6A・臨4B）			基礎歯学研究	
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習						基礎歯学輪講（講3A）	
火	1		（1Q）学内・学外早期体験実習 ／（2Q）歯科医師のコンピテンシーⅠ（講3B）			細胞生物学プラクシス（講3B）			教養教育：初年次セミナー（坂本）	
	2		教養教育							
	3		薬理学及び同実習（講3A・実5C）	（1Q）微生物学・口腔微生物学（講3A）／ （2Q）病理学総論及び同実習（講3A・実5B）		病理学総論及び同実習（講3A・実5B）				
	4		歯科矯正学及び同実習（講6A）		保存修復学（講6A）	保存修復学実習（臨4B）				
	5		統合科目（講6B）						歯学研究	
	6		臨床実習							
水	1		教養教育							
	2		生理学（講3B）／生理学実習（実5C）			（1Q）教養教育：歯科学のための生物科学（講3B）		（1Q）教養教育：歯科学のための化学（講3B）		
	3		歯科理工学Ⅰ／歯科理工学Ⅱ／歯科理工学Ⅲ（講3A）			口腔組織学及び同実習（講3A・実5B）				
	4		（1Q）災害口腔医学 ／（2Q）小児歯科学・小児歯科学実習（講6A）		歯内治療学（講6A）	歯内治療学実習（臨4B）				
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習						歯学研究	
木	1		教養教育							
	2		解剖学及び同実習（講3B・歯解実）				歯科医師のコンピテンシーⅡ（講3B）			
	3		内科学総論（講3A）		歯科東洋医学（講3A）／Scientific and Practical English（講3A）					
	4		障害者歯科学（講6A）		歯科医師のコンピテンシーⅣ（講5A）	冠橋義歯学及び同実習（講6A・臨4B）				
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習							
金	1		教養教育							
	2		生化学（講3B）		発生学（講3B）	生理学（講3B）／生理学実験（実5C）				
	3		外科学総論（講3A）	口腔解剖学及び同実習（歯解実・講3A）		コミュニティー教育・実習（講3A）		（1Q）基礎歯学研究概論（講3A）／（2Q）基礎歯学研究		
	4		歯科麻酔学及び同実習（講6A）			有床義歯補綴学及び同実習（講6A・臨4B）				
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習						基礎歯学輪講（講3A）	

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A（C棟3階）
講3B・・・講義室3B（C棟3階）
講6A・・・講義室6A（C棟6階）
講6B・・・講義室6B（C棟6階）
実5A・・・実習室5A（C棟5階）
実5B・・・実習室5B（C棟5階）
実5C・・・実習室5C（C棟5階）
歯解実・・・歯学部解剖実習室（A棟7階）
臨4B・・・臨床実習室4B（C棟4階）
医2講・・・医学部第2講義室
医1実・・・医学部第1実習室

時間割

90分授業	60分授業
1校時 8:50–10:20	1校時 8:50–9:50
2校時 10:30–12:00	2校時 10:00–11:00
3校時 13:00–14:30	3校時 11:10–12:10
4校時 14:40–16:10	4校時 13:00–14:00
5校時 16:20–17:50	5校時 14:10–15:10
	6校時 15:20–16:20
	7校時 16:30–17:30
	8校時 17:40–18:40

（令和8年度）歯学部授業時間割

（　後　期　）（ 3Q･4Q ）

曜日	校時	Ⅰ 8:50–10:20	Ⅱ 10:30–12:00	Ⅲ 13:00–14:30	Ⅳ 14:40–16:10	Ⅴ 16:20–17:50
	年次	1 8:50–9:50	2 10:00–11:00	3 11:10–12:10	4 13:00–14:00	5 14:10–15:10	6 15:20–16:20	7 16:30–17:30	8 17:40–18:40
月	1		細胞生物学入門Ⅱ（講3B）	歯学展望（講3B）					
	2	長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（講6B）			長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（オンライン自主学習）				
	3	内科学各論（講3A）		微生物学・口腔微生物学（講3A）	外科学各論（講3A）		隣接医学Ⅱ（講3A）		
	4	歯周病学（講6A）		統合科目（スポーツ歯学）／統合科目（総合歯科学Ⅰ）（講6A）	歯周病学実習（臨4B）			基礎歯学研究	
	5	臨床実習							
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3A）	
火	1		学内・学外早期体験実習（講3B）						
	2	長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（講6B）			生化学実験（実5A）				
	3	(3Q)医学統計学／(4Q)コンピテンシーⅢ（講3A）	口腔病理学及び同実習(講3A ・実5B)						
	4	統合科目（臨床解剖学）（講6A・歯解実・医解実）			口腔外科学Ⅰ及び同実習（講6A・臨4B）			実践臨床歯科英会話（講6A）	
	5	臨床実習						(3Q)コンピテンシーⅤ／臨床歯学セミナー（講6B）	
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3A）	
水	1	教養教育							
	2	(3Q)長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム(講6B)			(3Q)長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（オンライン自主学習）				
		(4Q)解剖学及び同実習（講6B・歯解実・医解実）							
	3	隣接医学Ⅰ・Ⅱ（講3A）			(3Q)歯科理工学実験（講3A・実5C）			(4Q)隣接医学Ⅱ（講3A）	
	4	高齢者歯科学（講6A）		小児歯科学／小児歯科学実習（講6A・臨4B）					
	5	臨床実習						歯学研究	
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3B）	
木	1	教養教育							
	2	解剖学及び同実習（講6B・歯解実・医解実）							
	3	(3Q)隣接医学Ⅲ（講3A）	(3Q)口腔微生物学実習（講3A・実5A）						
		(4Q)隣接医学Ⅰ・Ⅱ（講3A）	(4Q)衛生学及び同実習（講3A・実5A）						
	4	歯科放射線学及び同実習（講6A）		冠橋義歯学及び同実習（講6A・臨4B）					臨床歯学研究概論（講6A）
	5	臨床実習							
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3B）	
金	1	教養教育							
	2	組織学及び同実習（講6B・実5B）							
	3	歯科薬理学（講3A）／口腔生理学（講3A）		口腔生化学（講3A）			基礎歯学研究		
	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習（講6A・臨4B）		有床義歯補綴学及び同実習（講6A・臨4B）					
	5	臨床実習／医哲学・医療倫理（医学部記念講堂）（10月の2日間）							
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3B）	

※　教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A･･･講義室3A（C棟3階）
講3B･･･講義室3B（C棟3階）
講6A･･･講義室6A（C棟6階）
講6B･･･講義室6B（C棟6階）
実5A･･･実習室5A（C棟5階）
実5B･･･実習室5B（C棟5階）
実5C･･･実習室5C（C棟5階）
歯解実･･･歯学部解剖実習室（A棟7階）
臨4B･･･臨床実習室4B（C棟4階）
医解実･･･医学部解剖実習室
医講4･･･医学部第4講義室（病院2階）

時間割

90分授業		60分授業	
1校時	8:50–10:20	1校時	8:50–9:50
2校時	10:30–12:00	2校時	10:00–11:00
3校時	13:00–14:30	3校時	11:10–12:10
4校時	14:40–16:10	4校時	13:00–14:00
5校時	16:20–17:50	5校時	14:10–15:10
		6校時	15:20–16:20
		7校時	16:30–17:30
		8校時	17:40–18:40

総合科目（1年次生～5年次生）

（1）学内・学外早期体験実習　（1年）・・・・・・・・・・・・2
（2）学内・学外早期体験実習　（1年）・・・・・・・・・・・・5
（3）歯学展望　（1年）・・・・・・・・・・・・8
（4）コミュニティー教育・実習　（3年）・・・・・・・・・・・・12
（5）歯科東洋医学　（3年）・・・・・・・・・・・・15
（6）Scientific and Practical English　（3年）・・・・・・・・・・・・18
（7）歯科医師のコンピテンシーⅠ　（1年）・・・・・・・・・・・・21
（8）歯科医師のコンピテンシーⅡ　（2年）・・・・・・・・・・・・23
（9）歯科医師のコンピテンシーⅢ　（3年）・・・・・・・・・・・・25
（10）歯科医師のコンピテンシーⅣ　（4年）・・・・・・・・・・・・28
（11）歯科医師のコンピテンシーⅤ　（5年）・・・・・・・・・・・・31

年 度 2026 学 期 1･2Q	曜日･校時　木･3	必修選択　必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25064421 DNGD11101098 歯科医師のコンピテンシーⅣ/(Competence for Dentist Ⅳ)		
対象年次　4年次	講義形態　講義形式	教室　講義室6A	
対象学生(クラス等)　4年次		科目分類　総合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 住田吉慶/ y-sumita@nagasaki-u.ac.jp/ 先進口腔医療開発学分野教授室/ 095-819-7706/ 火曜日13時～17時			
担当教員(オムニバス科目等)	住田吉慶(先進口腔医療開発学分野)、井隆司(先進口腔医療開発学分野)、黒嶋伸一郎(北海道大学)、朝比奈泉(順天堂大学)、相田潤(東京医科歯科大学)、各務秀明(愛知医科大学)、Lucija Stefan(先進口腔医療開発学分野)		

授業の概要

歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために，各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる

授業到達目標

一般目標GIO:

医療、歯科医療および医学･歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理に関する知識を身につける。(研究倫理を中心に)　【平成28年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】A-1-1)、G-5-①

個別行動目標SBOs:　A-1-1)

1 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
2 医の倫理に関する規範･国際規範(ヘルシンキ宣言等)を概説できる。A-1-1)
3 臨床(生と死に関わる問題を含む)に関する倫理的問題を説明できる。A-8-1)
4 医学研究に関する倫理的問題を説明できる。A-9-1)
5 情報倫理に関わる問題を説明できる。A-8-1)、A-9-1)
6 研究を、医学･医療の発展や患者利益の増進を目的に配慮できる。

対応するディプロマポリシー

DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義、ビデオ学習、レポート作成など

授業内容

1回目: 臨床研究概説(臨床研究とは)／医療倫理(医の倫理･生命倫理)
2回目: 臨床研究総論
3回目: 臨床研究各論Ⅰ(研究倫理)
4回目: 臨床研究各論Ⅱ(研究の枠組みと研究デザイン)
5回目: 臨床研究各論Ⅲ(非臨床試験から臨床試験･治験の進め方)
6回目: 臨床研究各論Ⅳ(安全性の確保･法規制･再生医療等確保法や臨床研究法下での臨床研究)
7回目: 診療における Evidence-Based Dentistry (EBD) Ⅰ
8回目: 診療における Evidence-Based Dentistry (EBD) Ⅱ
9回目: 介入研究の実際Ⅰ(口腔領域で実施されている臨床試験や治験)
10回目: 臨床研究各論Ⅴ(研究の企画:クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ)
11回目: 臨床研究論文の統計解釈Ⅰ
12回目: 臨床研究論文の統計解釈Ⅱ
13回目: 国際的な医療倫理や臨床研究の状況(クロアチアにおける歯科医療と臨床研究)
14回目: 介入研究の実際Ⅰ(再生医療で実施されている臨床試験)
15回目: 研究計画書と説明同意書作成、被験者への説明の実際／トランスレーショナルリサーチ

キーワード	研究倫理, 情報倫理
教科書･教材･参考書	授業資料など

成績評価の方法・基準等	レポート作成，授業出席状況、受講態度等を中心に，必要に応じて筆記試験も行う
受講要件(履修条件)	単位取得には、課題レポートの提出、および2/3以上の授業回の出席が要件となる。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	住田　吉慶／名古屋大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・臨床研究や研究倫理についての講義 黒嶋　伸一郎／長崎大学の病院補綴科における診療経験、歯科医学研究の実務／細胞治療研究・口腔インプラント学についての講義 井　隆司／長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・口腔外科学や臨床研究についての講義 朝比奈　泉／東京医科歯科大学・長崎大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／再生医療研究・口腔外科学についての講義 相田　潤／東北大学・東京医科歯科大学の病院臨床研究部門における実務経験、歯科医学研究の実務／統計学的研究・臨床研究や統計学についての講義 各務秀明／東京大学、松本歯科大学、愛知医科大学の病院口腔外科における診療経験、歯科医学研究の実務／口腔領域の臨床試験についての講義

日程表(歯科医師のコンピテンシーⅣ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	木	3	臨床研究概説（医学の発展における臨床研究の重要性を説明できる。） ・(医の倫理・生命倫理）医と生命の倫理の原則を概説できる。 ・患者の権利、国際的な医療倫理に関する宣言を説明できる。 ・歯科医師の責務を説明できる。	住田	講義室6A
2回	4	9	木	3	臨床研究総論 ・EBMを実践する上での臨床研究の必要性を概説できる。	住田	講義室6A
3回	4	16	木	3	臨床研究各論Ⅰ（研究倫理） ・臨床研究に関する歴史上の重要事項から生じてきた倫理的な諸問題を解決するための研究倫理・生命倫理について説明できる。 ・ヒト医学研究の倫理指針について説明できる。	住田	講義室6A
4回	4	23	木	3	臨床研究各論Ⅱ（臨床研究の枠組みと研究デザイン） ・基礎研究、臨床研究、臨床試験、治験を説明できる。 ・医療技術や医薬品、医療機器開発の流れが説明できる。 ・研究デザインを概説できる。	住田	講義室6A
5回	4	30	木	3	臨床研究各論Ⅲ（非臨床試験から臨床試験・治験の進め方） ・CMCや非臨床研究開発について概説できる。 ・臨床試験や治験の相について概説できる。	住田	講義室6A
6回	5	7	木	3	臨床研究各論Ⅳ（安全性の確保・法規制・再生医療安全確保法や臨床研究法での臨床研究） ・有害事象と副作用を説明できる。 ・GCPについて説明できる。	住田	講義室6A
7回	5	14	木	3	診療におけるEvidence-Based Dentistry (EBD) Ⅰ ・診療の中でのEBDの確保について概説できる。 ・臨床ガイドライン、メタアナリシス、システマティックレビューを概説できる。	黒嶋（北海道大学）	オンライン（講義室6A）
8回	5	21	木	3	診療におけるEvidence-Based Dentistry (EBD) Ⅱ ・診療の中でのEBDの確保について概説できる。 ・臨床ガイドライン、メタアナリシス、システマティックレビューを概説できる。	黒嶋（北海道大学）	オンライン（講義室6A）
9回	5	28	木	3	介入研究の実際Ⅰ ・口腔領域で実施されている臨床試験を説明できる。	朝比奈（順天堂大学）	講義室6A
10回	6	4	木	3	臨床研究各論Ⅴ（研究の企画：クリニカルクエスチョンCQからリサーチクエスチョンRQへ） ・CQとRQを概説できる。 ・RQから研究立案までの流れを概説できる。	井	講義室6A
11回	6	11	木	3	臨床研究論文の統計解釈Ⅰ ・臨床研究論文のデータを理解するための統計の重要事項を理解する。	相田（東京科学大学）	オンライン（講義室6A）
12回	6	18	木	3	臨床研究論文の統計解釈Ⅱ ・臨床研究論文のデータを理解するための統計の重要事項を理解する。	相田（東京科学大学）	オンライン（講義室6A）
13回	6	25	木	3	国際的な医療倫理や臨床研究の状況（クロアチアにおける歯科医医療と臨床研究） ・国際的な医療倫理や臨床研究の法規制を概説できる。	Stefan	講義室6A
14回	7	2	木	3	介入研究の実際Ⅱ ・口腔領域で実施されている臨床試験を説明できる。	各務（愛知医科大学）	オンライン（講義室6A）
15回	7	9	木	3	研究計画書と説明同意文書作成、被験者への説明の実際 ・計画書や説明同文書作成上の重要点を説明できる。 トランスレーショナルリサーチとリバーストランスレーショナルリサーチ ・トランスレーショナルリサーチの流れを説明できる。	住田	講義室6A
16回	7	16	木	3	予備日		

口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生、5年次生）

（1）衛生学及び同実習　(3年)・・・・・・・・・・・・116
（2）予防歯科学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・120
（3）歯科矯正学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・125
（4）小児歯科学　(4年)・・・・・・・・・・・・129
（5）小児歯科学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・132
（6）保存修復学　(4年)・・・・・・・・・・・・134
（7）保存修復学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・137
（8）歯内治療学　(4年)・・・・・・・・・・・・140
（9）歯内治療学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・143
(10) 歯周病学　(4年)・・・・・・・・・・・・146
(11) 歯周病学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・149
(12) 冠橋義歯学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・152
(13) 有床義歯補綴学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・158
(14) 口腔外科学Ⅰ及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・162
(15) 口腔外科学Ⅱ及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・164
(16) 歯科放射線学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・167
(17) 歯科麻酔学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・170
(18) 高齢者歯科学　(4年)・・・・・・・・・・・・173
(19) 障害者歯科学　(4年)・・・・・・・・・・・・177
(20) 災害口腔医学　(4年)・・・・・・・・・・・・180
(21) 口腔インプラント学　(5年)・・・・・・・・・・・・183
(22) 摂食嚥下リハビリテーション学　(5年)・・・・・・・・・・・・186
(20) 社会歯科学　(5年)・・・・・・・・・・・・189

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 月・4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034302 DNGD33021990 予防歯科学及び同実習/ (Preventive Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 入江浩一郎/iriko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教員室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	入江浩一郎、川下由美子、今給黎明 非常勤講師:山本龍生・槻木恵一(神奈川歯科大学)、恒石美登里(日本歯科総合研究機構)、 花田信弘(鶴見大学)		

授業の概要

予防は医学の原点である。特に口腔疾患については効率のよい予防が可能であることが分かってきた。口腔疾患の予防について個人的アプローチと集団的、社会的アプローチを理解し、口腔の健康を保持・増進するために必要な知識、態度、能力を養う。

授業到達目標

一般目標 GIO:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
疾病の予防と健康管理を通じて公衆衛生の向上に努め、健康な生活を確保する。	B-3-2)-①, F-3-2)
歯科疾患の予防と口腔管理を理解する。	B-4-1)-③ B-3-2)-②
個別行動目標 SBOs:	B-3-2), F-3-2)
1.主な口腔疾患(う蝕、歯周疾患)の予防を理解している。	B-3-2)-④, ⑥, F-3-2)
2.口腔疾患の疫学と指標について説明できる。	
3.う蝕予防におけるフッ化物について説明できる。	B-1)
4.個人および集団レベルでの予防と健康管理を説明できる。	
5.地域歯科保健、母子歯科保健、学校歯科保健、成人歯科保健、老人歯科保健、産業歯科保険を説明できる。	
6.健康づくりと食生活、栄養、口腔疾患と全身の健康について説明できる。	

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義及び実習

授業内容

1 回目: 予防歯科学概論(入江)
2 回目: う蝕の病因論(入江)
3 回目: 歯周病の病因論(入江)
4 回目: 口腔保健と疫学(川下)
5 回目: 口腔保健の指標ならびに歯科疾患実態調査の概要と最新の結果について(入江)
6 回目: プラークコントロール①:口腔バイオフィルムの形成と病原体(入江)
7 回目: プラークコントロール②:ブラッシング法、歯磨剤、洗口剤(今給黎)
8 回目: プラークコントロール③:歯口腔清掃指導、口腔清掃状態の指標(今給黎)
9 回目: プラークコントロール④:飲食(今給黎)
10 回目: 口腔の機能:唾液の性状とその機能について(川下)
11 回目: 齲蝕の予防①:齲蝕の特異的予防(入江)
12 回目: 齲蝕の予防②:フッ化物の応用と齲蝕予防機序(入江)
13 回目: 齲蝕の予防③:フッ化物による齲蝕予防法とその効果、フッ化物の濃度と量(入江)
14 回目: 齲蝕の予防④:齲蝕予防効果の評価と齲蝕を評価する指数(入江)
15 回目: 自習
16 回目: 歯周病の予防・禁煙指導(入江)
17 回目: 口臭の予防(入江)
18 回目: 齲蝕活動試験(入江)
19 回目: 地域保健:母子の口腔保健(川下)
20 回目: 地域保健:学校での口腔保健(川下)
21 回目: 自習
22 回目: 特別講義(恒石)
23 回目: 特別講義(山本)

24回目：自習 25回目：特別講義1(花田) 26回目：特別講義2(花田) 27回目：地域保健:成人の口腔保健(今給黎) 28回目：特別講義3(花田) 29回目：特別講義4(花田) 30回目：地域保健:高齢者の口腔保健(今給黎) 31回目：特別講義(槻木) 32回目：地域保健:職域での口腔保健(川下) 33回目：ポーツマウスガードについて(入江) 34-36回目：予防歯科実習①(入江) 37-39回目：予防歯科実習②口腔診査法(入江・川下・今給黎) 40-42回目：予防歯科実習③う蝕活動性試験(入江・川下・今給黎) 43-45回目：予防歯科実習④プラークコントロール(入江・川下・今給黎)	
キーワード	う蝕、歯周疾患、予防、保健、フッ化物、プラークコントロール、地域保健
教科書・教材・参考書	口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合もある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席すること。欠席した学生は必ず連絡を取ること。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。 ZOOM等によるオンラインの可能性もあるので、LACSにて確認してください。
実務経験のある教員による授業科目	・入江　浩一郎／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・川下　由美子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・今給黎　明／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供

予防歯科学及び同実習日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	月	4	予防歯科学概論 予防歯科学は個人を対象とした分野と集団や社会を対象とした分野に大別され、衛生学、社会歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学、予防医学など幅広い分野と重なる。	入江	講義室6A
2回	4	6	月	5	う蝕の病因論 う蝕進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について理解する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても理解する。	入江	講義室6A
3回	4	6	月	6	歯周病の病因論 歯周病の発病、進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について理解する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても理解する。	入江	講義室6A
4回	4	13	月	4	口腔保健と疫学	川下	講義室6A
5回	4	13	月	5	口腔保健の指標ならびに歯科疾患実態調査の概要と最新の結果について	入江	講義室6A
6回	4	13	月	6	プラークコントロール① 口腔バイオフィルムの形成と病原体	入江	講義室6A
7回	4	20	月	4	プラークコントロール② ブラッシング法、歯磨剤、洗口剤	今給黎	講義室6A
8回	4	20	月	5	プラークコントロール③ 歯口腔清掃指導、口腔清掃状態の指標	今給黎	講義室6A
9回	4	20	月	6	プラークコントロール④ 飲食(代用甘味料・特定保健用食品)	今給黎	講義室6A
10回	4	27	月	4	口腔の機能 唾液の性状とその機能について	川下	講義室6A
11回	4	27	月	5	齲蝕の予防① 齲蝕の特異的予防(砂糖について)	入江	講義室6A
12回	4	27	月	6	齲蝕の予防② フッ化物の応用と齲蝕予防機序	入江	講義室6A
13回	5	11	月	4	齲蝕の予防③ フッ化物による齲蝕予防法とその効果、フッ化物の濃度と量	入江	講義室6A
14回	5	11	月	5	齲蝕の予防④ 齲蝕予防効果の評価と齲蝕を評価する指数	入江	講義室6A
15回	5	11	月	6	自習		講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	18	月	4	歯周病の予防・禁煙指導	入江	講義室6A
17回	5	18	月	5	口臭の予防	入江	講義室6A
18回	5	18	月	6	齲蝕活動性試験	入江	講義室6A
19回	5	25	月	4	地域保健 母子の口腔保健(1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査等)	川下	講義室6A
20回	5	25	月	5	地域保健 学校での口腔保健	川下	講義室6A
21回	5	25	月	6	自習		講義室6A
22回	6	1	月	4	特別講義 ビックゲータと歯科保健医療について	恒石	講義室6A
23回	6	1	月	5	特別講義 歯科の社会決定要因(健康格差)について	山本	講義室6A
24回	6	1	月	6	自習		講義室6A
25回	6	8	月	4	特別講義1 う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ。	花田	講義室6A
26回	6	8	月	5	特別講義2	花田	講義室6A
27回	6	8	月	6	地域保健 成人の口腔保健	今給黎	講義室6A
28回	6	15	月	4	特別講義3	花田	講義室6A
29回	6	15	月	5	特別講義4	花田	講義室6A
30回	6	15	月	6	地域保健 高齢者の口腔保健	今給黎	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
31回	6	22	月	4	特別講義 唾液ケアによる健康増進について	槻木	講義室6A
32回	6	22	月	5	地域保健 職域での口腔保健	川下	講義室6A
33回	6	22	月	6	スポーツマウスガードについて	入江	講義室6A
34回	6	29	月	4	予防歯科学実習1(PBL)	入江	講義室3A
35回	6	29	月	5	予防歯科学実習1(PBL)	入江	講義室3A
36回	6	29	月	6	予防歯科学実習1(PBL)	入江	講義室3A
37回	7	6	月	4	予防歯科学実習2 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
38回	7	6	月	5	予防歯科学実習2 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
39回	7	6	月	6	予防歯科学実習2 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
40回	7	13	月	4	予防歯科学実習3 う蝕活動性試験	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
41回	7	13	月	5	予防歯科学実習3 う蝕活動性試験	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
42回	7	13	月	6	予防歯科学実習3 う蝕活動性試験	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
43回	7	27	月	4	予防歯科学実習4 プラークコントロール	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
44回	7	27	月	5	予防歯科学実習4 プラークコントロール	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B
45回	7	27	月	6	予防歯科学実習4 プラークコントロール	入江 川下 今給黎	臨床実習室4B

年度 2026　学期　1･2Q	曜日･校時　月 1～3 校時, 火 1～2 校時	必修選択　必修	単位数　2 単位
授業コード 科目ナンバリング･コード 授業科目/(英語名)	25034303 DNGD33031988 歯科矯正学及び同実習/Orthodontics & Orthodontic Practice		
対象年次　4年生	講義形態　講義及び実習	教室　講義室6A, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
講義:吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp /矯正医局 /TEL:095-819-7667/オフィスアワー:不在時を除き毎週金曜日 17:00 以降
実習:富永淳也/tomi226@nagasaki-u.ac.jp /教員研究室 /TEL:095-819-7669 /オフィスアワー:不在時を除き毎週金曜日 17:00 以降

担当教員 (オムニバス科目等)	吉田教明, 佛坂斉祉, 富永淳也, 森田幸子, 小牧博也, 吉見知子, 森内絵美, 大谷淳二〔非常勤講師〕, 外木守雄〔非常勤講師〕, 井口修一郎〔非常勤講師〕

授業の概要: 講義では, 口腔･頭蓋･顔面領域における発生および成長発育の基礎知識を学び, 矯正治療の目的, 必要性, 臨床的意義を理解し, 異常に対する検査, 診断, 治療法を理解する。実習では, 矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を通して習得する。

一般目標 GIO:口腔･頭蓋･顔面領域における発生および成長発育について基礎知識を習得する。矯正治療の目的, 意義, 診断, 治療法等を理解し, また矯正臨床に必要な基礎的な技術を身に付ける。

平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム

個別行動目標 SBOs:

1. 発生, 成長発育の概念, 正常咬合が説明できる。	E-2-2), E-2-3), E-2-4)
2. 不正咬合の種類, 原因, 病態, 予防法が説明できる。	E-2-2), E-2-3), E-2-4), E-4-1)
3. 矯正治療の目的と意義を理解し, 矯正診断と治療の流れ, 治療法が説明できる。	E-4-1)
4. 関連する力学が説明できる。	E-4-1)
5. 装置の種類と使用目的, 構造,作用機序,生体反応, 適応症および製作方法が説明できる。	E-4-1)
6. 矯正装置を製作できる。	E-4-1)
7. 矯正装置に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	E-4-1)

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法): 講義, 実習, e-Learning
講義では, 学生の理解度を確認するため小テスト(pre, post)を逐次実施する。 e-Learning を利用して, 学生の予習･復習による自主的学習意欲を高めるため講義内容および実習資料を公開する。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)
概要:はじめに講義にて, 矯正治療の歴史的流れを理解し, 正常咬合とは何か, 顔貌の不正, 顎骨の異常形態および不正咬合の検査法, 診断法を理解する。同時に今後の矯正歯科学の新しい治療法について内容を深める。実習では, 各課題で作成する装置の構造, 機能, 理論, 適応症などについて, 配布した実習書に従って講義と実習を行い, 矯正装置の製作を行う。
授業内容
1 回目:【講義 1】 Ⅰ総論-1 章 歯科矯正学の定義と歩み,2 章 矯正歯科治療の目的と意義,歯科矯正学の歴史、目的と意義
2 回目:【講義 2】 Ⅱ診断学-11 章 治療目標･治療方針･治療計画の立案,治療の流れ(上顎前突)診断から治療のプロセス
3 回目:【講義 3】 Ⅲ治療学-12 章 治療学概論,治療の流れ(下顎前突)診断から治療のプロセス
4 回目:【講義 4】 Ⅰ総論-4 章 咬合 ①
5 回目:【講義 5】 Ⅰ総論-4 章 咬合 ②
6 回目:【講義 6】 Ⅰ総論-3 章 成長発育
7 回目:【講義 7】 Ⅱ診断学-8 章 診断,Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査(Ⅰ･1～Ⅰ･6),Ⅱ機能検査(Ⅱ･1～Ⅱ･6)
8 回目:【講義 8】 Ⅱ診断学-8 章 診断,Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査(Ⅰ･1～Ⅰ･6),Ⅱ機能検査(Ⅱ･1～Ⅱ･6)
9 回目:【講義 9】 Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査,(Ⅰ･7 頭部 X 線規格写真分析)
10 回目:【講義 10】 Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査,(Ⅰ･7 頭部 X 線規格写真分析)
11 回目:【講義 11】 Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査,(Ⅰ･7 頭部 X 線規格写真分析)
12 回目:【講義 12】 Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査,(Ⅰ･7 頭部 X 線規格写真分析)
13 回目:【講義 13】 Ⅱ診断学-9 章 検査 Ⅰ形態的検査,(Ⅰ･7 頭部 X 線規格写真分析)
14 回目:【講義 14】 Ⅰ総論-5 章 不正咬合の原因①,6 章 不正咬合の予防①
15 回目:【講義 15】 Ⅰ総論-5 章 不正咬合の原因②,6 章 不正咬合の予防②
16 回目:【講義 16】 Ⅲ治療学-矯正治療に必要な力学
17 回目:【講義 17】 Ⅲ治療学-15 章 矯正用材料の特性
18･19･20 回目:【実習 1】 ブライヤー貸出･確認,自在ろう着･線屈曲
21 回目:【講義 18】 Ⅱ診断学-10 章 矯正歯科治療における抜歯①
22 回目:【講義 19】 Ⅰ総論-7 章 矯正歯科治療に伴う生体反応,Ⅲ治療学-13 章 矯正力
23･24･25 回目:【実習 2】 舌側弧線装置(1)
26 回目:【講義 20】 Ⅱ診断学-10 章 矯正歯科治療における抜歯②,Ⅲ治療学-14 章 矯正歯科治療における固定①
27 回目:【講義 21】 Ⅲ治療学-14 章 矯正歯科治療における固定②
28･29･30 回目:【実習 3】 舌側弧線装置(2)
31 回目:【講義 22】 Ⅲ治療学-16 章 矯正装置 Ⅰ矯正装置の種類と特徴
32 回目:【講義 23】 Ⅲ治療学-16 章 矯正装置 Ⅱ器械的矯正装置
33･34･35 回目:【実習 4】 舌側弧線装置(3)
36 回目:【講義 24】 Ⅲ治療学-16 章 矯正装置 Ⅲ機能的矯正装置 Ⅳその他の矯正装置

37 回目:【講義 25】付録 矯正用材料、矯正用器械、器具
38・39・40 回目:【実習 5】舌側弧線装置(4)
41 回目:【講義 26】Ⅲ治療学-17 章 乳歯列期・混合歯列期の治療,(Ⅰ・1～Ⅱ・4)
42 回目:【講義 27】Ⅲ治療学-17 章 乳歯列期・混合歯列期の治療,(Ⅱ・4～Ⅱ・10)
43・44・45 回目:【実習 6】エッジワイズ装置(1)
46 回目:【講義 28】Ⅲ治療学-18 章 永久歯列期の治療,(Ⅰ上顎前突Ⅱ下顎前突)
47 回目:【講義 29】Ⅲ治療学-18 章 永久歯列期の治療,(Ⅲ叢生 Ⅳ上下顎前突)
48・49・50 回目:【実習 7】エッジワイズ装置(2)
51 回目:【講義 30】歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療
52 回目:【講義 31】Ⅲ治療学-20 章 チーム医療の中の矯正歯科治療,(Ⅱ 顎変形症の矯正歯科治療)
53・54・55 回目:【実習 8】エッジワイズ装置(3)
56 回目:【講義 32】睡眠時無呼吸に対する歯科医療の役割
57 回目:【講義 33】Ⅲ治療学-20 章 チーム医療の中の矯正歯科治療,(Ⅰ口唇・口蓋裂の矯正歯科治療)
58・59・60 回目:【実習 9】エッジワイズ装置(4)
61 回目:【講義 34】Ⅲ治療学-18 章 永久歯列期の治療,(Ⅴ過蓋咬合 Ⅵ開咬)
62 回目:【講義 35】Ⅲ治療学-18 章 永久歯列期の治療,(Ⅶ交叉咬合 Ⅷ埋伏 Ⅸ外傷)
63・64・65 回目:【実習 10】エッジワイズ装置(5),プライヤー返却・確認
66 回目:【講義 36】Ⅲ治療学-19 章 保定,Ⅲ治療学-21 章 矯正歯科治療における口腔衛生管理,Ⅲ治療学-22 章 矯正歯科治療に伴う偶発症・併発症

キーワード	発生, 成長発育, 正常咬合, 不正咬合の種類, 原因, 矯正治療の目的, 矯正装置, 舌側弧線装置, エッジワイズ装置, 機能的矯正装置, 力学
教科書・教材・参考書	教科書:歯科矯正学(第 6 版), 医歯薬出版, 飯田順一郎, 葛西一貴他編 参考書:歯科矯正マニュアル, 南山堂, 槇宏太郎他編　プロフィトの現代歯科矯正学, クインテッセンス出版, e-Learning にて実習書, 講義での画像, 実習デモの動画を提供する。
成績評価の方法・基準等	講義の評価と実習の評価で行う。いずれも 60 点以上のものを合格とする。講義の評価は, 定期試験時の筆記試験で行い, LACS のテストの成績は講義の成績評価の参考とする。実習の評価は, 各課題の製作物評価, 実習態度, 理解度, レポートにより総合評価を行う。
受講要件(履修条件)	定期試験は, 本試験, 再試験とする。出席率は学部規則に従って評価する。3/4 以上の出席で受験資格を得る。追試験, 再試験は学部規則の範囲で行う。
備考(学生へのメッセージ)	講義の進行と実習内容を同調させるために, 前半において講義を集中的に行うので予習復習が必要。 実習では実習書を各自印刷もしくはデータで閲覧できる状態で持参すること。実習内容は前日までに e-learning による予習を行い, LACS で実習デモの動画を必ず閲覧すること。LACS で連絡事項を掲示する。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田　教明／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・佛坂　斉祉／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・富永　淳也／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・森田　幸子／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・小牧　博也／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・吉見　知子／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・森内　絵美／現役歯科医師の大学病院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を指導する。 ・大谷　淳二／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術を指導する。 ・外木　守雄／現役歯科医師の歯科医院における実務経験／矯正臨床に必要な基本的知識, 技術を指導する。

日程表（歯科矯正学及び同実習）

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容(案)	担当者	教室
1回	4	6	月	1	【講義1】 Ⅰ総論-1章 歯科矯正学の定義と歩み 2章 矯正歯科治療の目的と意義 歯科矯正学の歴史、目的と意義	森田	講義室6A
2回	4	6	月	2	【講義2】 Ⅱ診断学-11章 治療目標・治療方針・治療計画の立案 治療の流れ（上顎前突）診断から治療のプロセス	富永	講義室6A
3回	4	6	月	3	【講義3】 Ⅲ治療学-12章 治療学概論 治療の流れ（下顎前突）診断から治療のプロセス	森田	講義室6A
4回	4	7	火	1	【講義4】 Ⅰ総論-4章 咬合 ①	森田	講義室6A
5回	4	7	火	2	【講義5】 Ⅰ総論-4章 咬合 ②	森田	講義室6A
6回	4	13	月	1	【講義6】 Ⅰ総論-3章 成長発育	小牧	講義室6A
7回	4	13	月	2	【講義7】 Ⅱ診断学-8章 診断 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査（Ⅰ・1～Ⅰ・6） Ⅱ機能検査（Ⅱ・1～Ⅱ・6）	富永	講義室6A
8回	4	13	月	3	【講義8】 Ⅱ診断学-8章 診断 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査（Ⅰ・1～Ⅰ・6） Ⅱ機能検査（Ⅱ・1～Ⅱ・6）	富永	講義室6A
9回	4	14	火	1	【講義9】 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	小牧	講義室6A
10回	4	14	火	2	【講義10】 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	小牧	講義室6A
11回	4	20	月	1	【講義11】 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	小牧	臨床実習室４Ｂ
12回	4	20	月	2	【講義12】 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	小牧	臨床実習室４Ｂ
13回	4	20	月	3	【講義13】 Ⅱ診断学-9章 検査 Ⅰ形態的検査 （Ⅰ・7 頭部X線規格写真分析）	小牧	臨床実習室４Ｂ
14回	4	21	火	1	【講義14】 Ⅰ総論-5章 不正咬合の原因① 6章 不正咬合の予防①	富永	講義室6A
15回	4	21	火	2	【講義15】 Ⅰ総論-5章 不正咬合の原因② 6章 不正咬合の予防②	富永	講義室6A
16回	4	28	火	1	【講義16】 Ⅲ治療学-矯正治療に必要な力学	小牧	講義室6A
17回	4	28	火	2	【講義17】 Ⅲ治療学-15章 矯正用材料の特性	小牧	講義室6A
18～20回	5	11	月	１～３	【実習1】 プライヤー貸出・確認 自在ろう着・線屈曲	富永	臨床実習室４Ｂ
21回	5	12	火	1	【講義18】 Ⅱ診断学-10章 矯正歯科治療における抜歯①	吉見	講義室6A
22回	5	12	火	2	【講義19】 Ⅰ総論-7章 矯正歯科治療に伴う生体反応 Ⅲ治療学-13章 矯正力	森田	講義室6A
23～25回	5	18	月	１～３	【実習2】 舌側弧線装置(1)	富永	臨床実習室４Ｂ
26回	5	19	火	1	【講義20】 Ⅱ診断学-10章 矯正歯科治療における抜歯② Ⅲ治療学-14章 矯正歯科治療における固定①	吉見	講義室6A
27回	5	19	火	2	【講義21】 Ⅲ治療学-14章 矯正歯科治療における固定②	吉見	講義室6A
28～30回	5	25	月	１～３	【実習3】 舌側弧線装置(2)	富永	臨床実習室４Ｂ
31回	5	26	火	1	【講義22】 Ⅲ治療学-16章 矯正装置 Ⅰ矯正装置の種類と特徴	吉見	講義室6A
32回	5	26	火	2	【講義23】 Ⅲ治療学-16章 矯正装置 Ⅱ器械的矯正装置	吉見	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容(案)	担当者	教室
33～35回	6	1	月	１～３	【実習4】 舌側弧線装置(3)	富永	臨床実習室４Ｂ
36回	6	2	火	1	【講義24】 Ⅲ治療学-16章 矯正装置 Ⅲ機能的矯正装置 Ⅳその他の矯正	森田	講義室6A
37回	6	2	火	2	【講義25】 付録 矯正用材料、矯正用器械、器具	森田	講義室6A
38～40回	6	8	月	１～３	【実習5】 舌側弧線装置(4)	富永	臨床実習室４Ｂ
41回	6	9	火	1	【講義26】 Ⅲ治療学-17章 乳歯列期・混合歯列期の治療 (Ⅰ・1～Ⅱ・4)	森内	講義室6A
42回	6	9	火	2	【講義27】 Ⅲ治療学-17章 乳歯列期・混合歯列期の治療 (Ⅱ・4～Ⅱ・10)	森内	講義室6A
43～45回	6	15	月	１～３	【実習6】 エッジワイズ装置(1)	富永	臨床実習室４Ｂ
46回	6	16	火	1	【講義28】 Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療 (Ⅰ上顎前突Ⅱ下顎前突)	小牧	講義室6A
47回	6	16	火	2	【講義29】 Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療 (Ⅲ叢生 Ⅳ上下顎前突)	小牧	講義室6A
48～50回	6	22	月	１～３	【実習7】 エッジワイズ装置(2)	富永	臨床実習室４Ｂ
51回	6	23	火	1	【講義30】 歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療	大谷	講義室6A
52回	6	23	火	2	【講義31】 Ⅲ治療学-20章 チーム医療の中の矯正歯科治療 (Ⅱ 顎変形症の矯正歯科治療)	森内	講義室6A
53～55回	6	29	月	１～３	【実習8】 エッジワイズ装置(3)	富永	臨床実習室４Ｂ
56回	6	30	火	1	【講義32】 睡眠時無呼吸に対する歯科医療の役割	外木	講義室6A
57回	6	30	火	2	【講義33】 Ⅲ治療学-20章 チーム医療の中の矯正歯科治療 (Ⅰ口唇・口蓋裂の矯正歯科治療)	森田	講義室6A
58～60回	7	6	月	１～３	【実習9】 エッジワイズ装置(4)	富永	臨床実習室４Ｂ
61回	7	7	火	1	【講義34】 Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療 (Ⅴ過蓋咬合 Ⅵ開咬)	森内	講義室6A
62回	7	7	火	2	【講義35】 Ⅲ治療学-18章 永久歯列期の治療 (Ⅶ交叉咬合 Ⅷ埋伏 Ⅸ外傷)	森内	講義室6A
63～65回	7	13	月	１～３	【実習10】 エッジワイズ装置(5) ブライヤー返却・確認	富永	臨床実習室４Ｂ
66回	7	14	火	1	【講義36】 Ⅲ治療学-19章 保定 Ⅲ治療学-21章 矯正歯科治療における口腔衛生管理 Ⅲ治療学-22章 矯正歯科治療に伴う偶発症・併発症	富永	講義室6A

年度 2026　学期 通年	曜日・校時 2Q 水 1-2，3・4Q 水 3-7	必修選択　必修	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034324 DNGD33041988 小児歯科学/(Pediatric Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・グループワーク	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類　口腔生命科学各論 II		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
藤田優子/y-fujita@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学医局/095-819-7674(内 7674)/水曜日 12:00～13:00

担当教員(オムニバス科目等)	藤田優子，日高 聖，川﨑華子，佐藤恭子，近藤好夫，松尾 剛，有田光太郎，福本 敏(九州大学)

授業の概要
小児の口の健康を育むための，知識，技能，態度を身につける．

授業到達目標

一般目標 GIO:
小児の口腔の健康を維持し，健全な永久歯列を育成するために必要な知識，技能，態度を習得する。
小児と成人の相違に重点を置き、小児の特殊性を理解する。

個別行動目標 SBOs:
右欄の歯学教育コアカリキュラム参照のこと

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能

①歯の発生、発育および交換の過程と変化を説明できる。 ②歯種別の形態と特徴を説明できる。③遺伝的な歯の形成異常を説明できる。④歯(乳歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能および構成成分を説明できる。

E-4-2) 小児の歯科治療

①乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。 ②乳歯と幼若永久歯のう蝕の診察、検査と診断を説明できる。 ③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意点を説明できる。④歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。 ⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、手順と留意点および予後を説明できる。⑥小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。 ⑦咬合誘導の概念を説明できる。 ⑧保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。 ⑨小児患者の対応について説明できる。 ⑩小児の虐待の徴候と対応について説明できる。

E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

②代表的医科疾患・病態および歯科診療との関連について説明できる。 ③医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている．
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている．
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている．

授業方法(学習指導法)
講義，実習，調べ学習など

授業内容

1. 小児歯科概論	小児歯科の意義と目的
2. 小児の心身発育	成長概論，身体発育の特徴，精神的発育，口腔機能の発達，評価法
3. 頭蓋顔面顎の発育と異常	頭蓋の発育，顎の発育
4. 歯の発育と異常	歯の形成，歯の形成障害，歯の異常，歯の萌出と異常
5. 歯列咬合の発育と異常	発育段階の分類，歯列および咬合の発育異常
6. 咬合誘導と保隙	意義と目的，診査と診断，保隙，動的咬合誘導法，口腔習癖と処置
7. 乳歯，幼若永久歯の特徴	乳歯の形態と組織，幼若永久歯の形態と組織
8. 小児の齲蝕と予防	乳歯や幼若永久歯の齲蝕，心身に及ぼす影響，口腔衛生指導，薬物応用法，裂溝填塞法
9. 小児の歯周疾患	健常な歯周組織，小児歯周疾患の種類と特徴
10. 口腔管理計画	診査と診断，診療計画，患者指導，定期健診
11. 小児の歯冠修復	乳歯の歯冠修復，幼若永久歯の歯冠修復
12. 小児の歯内療法	乳歯歯髄炎の診査と診断，乳歯歯髄炎の処置法，幼若永久歯の歯内療法
13. 小児の歯の外傷	診査と診断，外傷の処置法，外傷の影響，小児の虐待とその対応
14. 小児の外科処置,粘膜疾患	抜歯，顎及び口腔軟組織の異常と疾患の処置，薬物療法
15. 心身障害児の歯科的対応	定義と口腔管理の問題点，種類と口腔所見，歯科的対応
16. 小児疾患と歯科診療	種類と歯科的特徴
特別講義 福本 敏(非常勤講師)	歯の発生

キーワード	小児，成長発達，口腔機能，齲蝕，咬合，外傷

教科書・教材・参考書	教科書：**小児歯科学第 6 版（医歯薬出版）** 参考書：小児歯科学（永末書店）第 3 版，小児歯科学基礎・臨床実習（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	1.小テストを 2 回行い、成績に反映させる。 2.授業への積極的な参加、全体の20％以内を限度として、評価対象とする。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験条件として，出席率70％以上の出席が必要となる.
備考(学生へのメッセージ)	日程表に教科書の対応ページを示すので予習しておくこと．講義予定，担当者は変更される場合あり．詳細は追って連絡する.
実務経験のある教員による授業科目	・藤田　優子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・日高　聖／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・川﨑　華子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・近藤　好夫/長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・佐藤　恭子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・松尾　剛／一般歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・有田光太郎／一般歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義 ・福本　敏／九州大学，東北大学小児歯科での歯科臨床経験／小児歯科学に関する講義

日程表(小児歯科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教科書 ページ	教員名	教室
1,2	6	10	水	1,2	頭蓋、顎、顔面の発育	33-44	日髙	講義室6A
3,4	6	17	水	1,2	小児の心身発育	5-32	藤田	講義室6A
5,6	6	24	水	1,2	口腔機能の発達	45-61	近藤	講義室6A
7,8	7	1	水	1,2	歯列、咬合の発育と異常	89-103	日髙	講義室6A
9,10	7	8	水	1,2	乳歯，幼若永久歯の特徴	104-117	佐藤	講義室6A
11,12	7	15	水	1,2	小児の齲蝕 齲蝕の予防と進行抑制	151-188	松尾	講義室6A
13,14	7	16	木	1,2	小児への歯科的対応	118-134	川﨑	講義室6A
15,16	7	17	金	1,2	歯の発育と異常	62-88	藤田	講義室6A
17	7	22	水	1	前期のまとめ（小テスト予定）		藤田	講義室6A
18-21	9	30	水	3,4 5,6	小児の歯冠修復 医療安全管理	194-211 143-150	藤田	講義室6A
22-25	10	7	水	3 4,5 6	小児の歯周疾患 小児の歯科診療の流れ 小児の歯内治療①	232-246 135-142 212-231	藤田 有田 川﨑	講義室6A
26-29	10	14	水	3,4 5,6	小児の歯内治療②③ 小児の外科	212-231 188-193 287-298	川﨑 日髙	講義室6A
30-32	10	21	水	3 4,5	心身障害児 顎骨と軟組織の疾患	338-367 258-286	藤田 日髙	講義室6A
33-35	10	28	水	3 4,5	小児疾患と歯科診療と歯科治療① 小児の外傷	368-412 247-257	藤田	講義室6A
36-38	11	4	水	3 4,5	小児疾患と歯科診療と歯科治療② 咬合誘導	368-412 299-337	藤田 日髙	講義室6A
39-41	11	11	水	3 4,5	小児疾患と歯科診療と歯科治療③ 唇顎口蓋裂	368-412 362-365	藤田 日髙	講義室6A
42-44	12	9	水	3 4,5	児童虐待 特別講義（歯の再生）	413-417	日髙 福本	講義室6A
45	1	20	水	3	後期のまとめ（小テスト予定）		藤田	講義室6A

講義，実習の日程についてはシラバス作製時の仮日程である
詳細については，追って連絡する

年度 2026　学期 通年	曜日・校時 2Q 水 1-2，3・4Q 水 3-7	必修選択　必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034324 DNGD33041988 小児歯科学実習/(Pediatric Dentistry Practice)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式	教室 講義室，実習室	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論 II	
担当教員(科目責任者)/E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤田優子/y-fujita@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学医局/095-819-7674(内 7674)/水曜日 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	藤田優子，日高 聖，川﨑華子，近藤好夫，足立真基		

授業の概要 /（500 文字）
マネキン，模型上で小児の修復，生活歯髄切断，保隙装置製作等を行い，その基礎技術，知識を習得する．

授業到達目標

一般目標(GIO)
小児歯科診療に必要な基本的技能，知識，態度をマネキン，模型を用いて習得する．

行動目標(SBOs)
1.乳歯のデッサンができる。
2.マネキン上でラバーダム防湿ができる。
3.模型上で乳歯の窩洞形成とコンポジットレジン充填ができる。
4.模型上でコンポジットレジン冠修復ができる。
5.模型上で乳歯の生活歯髄切断ができる。
6.模型上で支台歯形成と.既製金属冠が作成できる。
7.保隙装置の作成ができる。
8.模型上で乳歯のフィッシャーシーラントができる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
E-3-1）歯と歯周組織の発生および構造と機能
②歯種別の形態と特徴を説明できる。
E-4-2）小児の歯科治療
①乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意点を説明できる。⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、手順と留意点および予後を説明できる。⑧咬合誘導の概念を説明できる。 ⑨保隙処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP3：歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている．

授業方法(学習指導法)
実習

授業内容

1. 実習概説	実習の概説
2.機材整備	模型や器材の配布，点検
3.歯のデッサン	乳歯のデッサンを行う
4.ラバーダム防湿法	マネキン，模型上でのラバーダム防湿実習を行う
5.窩洞形成，レジン充填	マネキン，模型上でコンポジットレジン充填をする
6.コンポジットレジン冠修復	マネキン，模型上でコンポジットレジン冠の支台歯形成，修復を行う
7.乳歯生活歯髄切断	模型上で乳歯の生活歯髄切断を行う
8.乳歯既成金属冠	模型上で乳歯既製金属冠の支台歯形成，適合調整を行う
9.クラウンループ	模型上でクラウンループの作成を行う
10.フィッシャーシーラント	模型上で乳歯のフィッシャーシーラントを行う

○実習は後期に行います．
○日程はシラバス作成時時点では未定ですので，授業開始時に追って連絡します．
また実習内容は，OSCE などにより対応するために，シラバス作成後に変更する可能性があります．

結果は成績に含めるので実習帳内容等を予習してくること。

キーワード	乳歯，ラバーダム，乳歯冠，窩洞形成，生活歯髄切断，クラウンループ，コンポジットレジン冠
教科書・教材・参考書	事前に実習帳を電子データーで配布するので，各人タブレット等を用意すること． 教科書・実習書：小児歯科学基礎・臨床実習（医歯薬出版） 指定の模型を購入し，1 回目に持参すること
成績評価の方法・基準等	1.ステップ毎の作成物の採点 2.インストラクターの個人評価（最大20％まで）
受講要件(履修条件)	実習は，出席重視なので，原則欠席は不可
備考(学生へのメッセージ)	購入した実習模型を持参すること． 器材などは貸与するが，紛失，破損のないよう注意すること（責任が明らかな紛失，破損などに対しては，実費弁償を求める）。

日程表(小児歯科学実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教科書ページ	教員名	教室
1-5	11	18	水	3-7	実習説明 【ラバーダム、コンポジットレジン修復】 模型実習		藤田他	講義室6A・ 臨床実習室4B
6-10	11	25	水	3-7	実習説明 【コンポジットレジン冠修復】 模型実習		藤田他	講義室6A・ 臨床実習室4B
11-15	12	2	水	3-7	実習説明 【生活歯髄切断】 模型実習		藤田他	講義室6A・ 臨床実習室4B
16-20	12	16	水	3-7	実習説明 【既製金属冠修復】 模型実習		藤田他	講義室6A・ 臨床実習室4B
21-25	1	6	水	3-7	実習説明 【クラウンループ製作】 模型実習		藤田他	講義室6A・ 臨床実習室4B
26-30	1	13	水	3-7	実習説明 【シーラント】 模型実習		藤田他	講義室6A・ 臨床実習室4B

講義，実習の日程についてはシラバス作製時の仮日程である
詳細については，追って連絡する

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 火 3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034307 DNGD33051984 保存修復学/ (Restorative Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式(対面)	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 平 曜輔/yohsuke@nagasaki-u.ac.jp/保存修復学部門医局/095-819-7677(内 7677)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	平 曜輔、山田志津香、介田 圭、江越貴文、大原直子(非常勤講師)、渥美克幸(非常勤講師)		

授業の概要および位置づけ

歯の硬組織疾患に対する診査(検査)、診断、治療、予防、管理(維持)の原理、原則を学ぶ。予防、健康増進と関連した早期発見、早期管理および MI(Minimal Intervention) Dentistry の概念を理解する。さらに、齲蝕ならびに歯質欠損に対するMIに基づいた歯冠修復の方法と臨床的意義に関する知識を身に付ける。

授業到達目標

一般目標 GIO:
齲蝕および歯の硬組織疾患の病因と病態を理解し、治療の進め方の基本を修得する。

個別行動目標 SBOs:

	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 齲蝕その他の歯の硬組織疾患の病因と病態を説明できる。(知識;想起)	E-3-2)
2. 齲蝕その他の歯の硬組織疾患の症状、検査法、診断および処置法を説明できる。(知識;想起)	E-3-2), E-3-3)-(1)
3. MIに基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
4. 修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
5. 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
6. 歯髄保護の意義、種類と方法を説明できる。(知識;想起)	E-3-3)-(1)
7. 窩洞形成の意義と方法を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)
8. 仮封の意義、種類及び特徴を説明できる。(知識;想起)	E-3-3)-(1)
9. 修復後の管理の目的と方法を説明できる。(知識;解釈)	E-3-3)-(1)

対応するディプロマポリシー
DP 2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP 5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

教科書を基本に、スライドや板書での講義と必要に応じてプリントを配付する。

授業内容

1 回目 序論、保存修復学の目的と変遷、歯の構造、齲蝕、修復材料の所要性質
2 回目 齲蝕のリスクファクター、齲蝕の識別と処置法、診療姿勢、器具の持ち方、滅菌・消毒、感染予防対策
3 回目 検査、診断、治療方針、診療設備、回転切削器械、回転切削器具、レーザー他
4 回目 歯髄障害・歯髄保護、歯科保存修復の研究分野と大学における臨床
5 回目 齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化、窩洞の分類、窩洞各部の名称、窩洞の具備条件
6 回目 メタルインレー修復(1):概要、鋳造用合金、窩洞形成、印象採得、咬合採得、仮封、間接法模型
7 回目 メタルインレー修復(2):ろう型調整、埋没、鋳造、試適、研磨、合着・接着、予後
8 回目 修復法の種類、特徴、適応、修復物の形態と面の性質、除痛法、隔壁法、術野隔壁、歯肉排除法、歯間分離法
9 回目 一般開業医での包括的歯科診療における保存修復処置の臨床と役割、歯科の可能性、最新の歯冠修復テクニック
10 回目 コンポジットレジン修復(1):マトリックスレジン、フィラー、コンポジットレジンの分類、光照射器
11 回目 コンポジットレジン修復(2):接着システム、適応症、修復手順
12 回目 コンポジットレジンインレー修復、セラミックインレー修復、CAD/CAM
13 回目 歯の漂白、ラミネートベニア修復
14 回目 グラスアイオノマーセメント修復、アマルガム修復、高齢者の保存修復
15 回目 修復歯の予後、補修修復、カリオロジー、MI Dentistry、アンケート

キーワード	硬組織疾患、予防、診査、診断、処置、管理
教科書・教材・参考書	教科書：保存修復学21（第六版）（永末書店） 参考書：保存修復クリニカルガイド（第二版）（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う（再試までとする）。
受講要件(履修条件)	口腔生命科学各論（基礎科目）の復習を必要に応じて各自で行う。
備考(学生へのメッセージ)	歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。
実務経験のある教員による授業科目	・平　曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・山田志津香／大学病院および兼業先診療所における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・介田　圭／大学病院および歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・江越貴文／大学病院および兼業先歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・大原直子／大学病院および兼業先歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。 ・渥美克幸／歯科医院における実務経験／齲蝕治療に必要な基本的な知識を修得するともに、さらにそれを発展させるため、自らが考え行動する学習態度を身に付けることを促す。

日程表(保存修復学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	火	3	序論 保存修復学の目的と変遷、歯の構造 齲蝕	平	講義室6A
2回	4	14	火	3	齲蝕のリスクファクター、齲蝕の識別と処置法 診療姿勢、器具の持ち方、滅菌・消毒、感染予防対策	介田	講義室6A
3回	4	21	火	3	検査、診断、治療方針 診療設備、回転切削器械、回転切削器具、レーザー他	江越	講義室6A
4回	4	28	火	3	歯髄障害・歯髄保護 歯科保存修復の研究分野と大学における臨床	大原	講義室6A
5回	5	12	火	3	齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化 窩洞の分類、窩洞各部の名称、窩洞の具備条件	平	講義室6A
6回	5	19	火	3	メタルインレー修復(1): 概要、鋳造用合金、窩洞形成、印象採得、咬合採得、仮封、間接法模型 修復材料の所要性質	平	講義室6A
7回	5	26	火	3	メタルインレー修復(2): ろう型調整、埋没、鋳造、試適、研磨、合着・接着、予後	平	講義室6A
8回	6	2	火	3	修復法の種類、特徴、適応 修復物の形態と面の性質 除痛法、隔壁法、術野隔壁、歯肉排除法、歯間分離法	介田	講義室6A
9回	6	9	火	3	開業医での包括的歯科診療における保存修復の臨床と役割 歯科の可能性 最新の歯冠修復テクニック	渥美	講義室6A
10回	6	16	火	3	コンポジットレジン修復(1): マトリックスレジン、フィラー、コンポジットレジンの分類、光照射器	江越	講義室6A
11回	6	23	火	3	コンポジットレジン修復(2): 接着システム、適応症、修復手順	平	講義室6A
12回	6	30	火	3	コンポジットレジンインレー修復 セラミックインレー修復 CAD/CAM	平	講義室6A
13回	7	7	火	3	歯の漂白 ラミネートベニア修復	平	講義室6A
14回	7	14	火	3	グラスアイオノマーセメント修復 アマルガム修復 高齢者の保存修復	平	講義室6A
15回	7	21	火	3	修復歯の予後、補修修復 カリオロジー、MI Dentistry、アンケート	山田	講義室6A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 火・4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034308 DNGD33061984 保存修復学実習/ (Practice of Restorative Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式(対面)	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 平 曜輔/yohsuke@nagasaki-u.ac.jp/保存修復学部門医局/095-819-7677(内 7677)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	平 曜輔、山田志津香、介田 圭、江越貴文、川久保 敦(非常勤講師)、渥美克幸(非常勤講師)他		

授業の概要および位置づけ

・基礎実習は、講義において説明された学理を理解するために行われる。
・マネキンを用いるが、実際に患者さんを治療している状態を想定し、正しい治療姿勢ならびに技術の修得を図る。
・病んでいる患者さんを診るにあたっての心構えなどを身につける。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科医師としてのプロフェッショナリズムおよび齲蝕その他の硬組織疾患の保存修復処置に関する知識、技能ならびに態度を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:

1. 手用切削器具、および高・低速切削器具を安全に操作する。(技能、態度)	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-2-2)
2. 水平歯科診療姿勢を実施する。(技能、態度・習慣)	
3. 清潔に配慮した操作ができる.(技能、態度・習慣)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1)
4. 齲蝕除去および窩洞形成を行う。(技能)	F-1-2), F-2-1)
5. 歯髄保護を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3)
6. コンポジットレジン修復を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3)
7. メタルインレー修復を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-2), F-3-3)
8. グラスアイオノマーセメント修復を実施する。(技能)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3)
9. 歯科材料の使用説明書に従って、操作する。(技能、態度)	F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1), F-3-3), F-3-7) F-1-1), F-1-2), F-2-1), F-3-1)

対応するディプロマポリシー
DP 2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP 3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP 5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

原則、実習形式で行う。実習前にインストラクターによる各回の実習内容に関する説明を行う。
口頭による説明では理解しにくい手技等については、実習前にインストラクターによるデモを行う。各ステップで受講生の理解度を確認するとともに、実習 15 回目の実技試験により総括的評価を行う。

授業内容 1回目　器具整備、顎模型の確認、ルーペの使用法 2回目　歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去、覆髄、裏層 3回目　診療姿勢、プレパレーションプレートを用いた切削練習 4回目　インレー窩洞形成(1):スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞形成 5回目　インレー窩洞形成(2):Ⅱ級セラミック(コンポジットレジン)インレー窩洞形成 6回目　インレー窩洞の印象採得、咬合採得、仮封 7回目　CR 修復・Ⅴ級 8回目　CR 修復・Ⅰ級、前回の CRⅤ級修復の仕上げ研磨 9回目　CR 修復・Ⅲ級、前回の CRⅠ級修復の仕上げ研磨 10回目　CR 修復・Ⅱ級、前回の CRⅢ級修復の仕上げ研磨 11回目　CR 修復・Ⅳ級、前回の CRⅡ級修復の仕上げ研磨 12回目　CR 修復・Ⅵ級、前回の CRⅣ級修復の仕上げ研磨 13回目　CR 補修修復、前回の CRⅥ級修復の仕上げ研磨 14回目　グラスアイオノマーセメント修復、CR 補修修復の仕上げ研磨 15回目　実技試験、前回のグラスアイオノマーセメント修復の研磨、器具の点検・回収	
キーワード	硬組織疾患修復法、各種修復材料、歯質保存的修復、歯髄保護
教科書・教材・参考書	実習帳を使用する:LACS からファイルをダウンロードして印刷またはモバイル端末で閲覧 参考書:保存修復学21(第六版)　(永末書店)
成績評価の方法・基準等	・平常時の作品{作品毎に評価する(A から D までの 4 段階、D は不可)、実習態度、理解度などから判定する。 ・作品の点数のみならず、実習態度、理解しながら行っているかなども重要な判定基準である。
受講要件(履修条件)	出席 3/4 以上(原則として、やむを得ない場合を除き、欠席は認めない。)
備考(学生へのメッセージ)	・講義の進行と実習内容が同調しない項目があるので、十分な予習が必要である。 ・実習中に無断退室した場合、その回は未受講とする。 ・15 回目に行う実技試験を受けなかった場合、失格とする。
実務経験のある教員による授業科目	・平　曜輔／大学病院および兼業先歯科診療所における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・山田志津香／大学病院ならびに兼業先歯科診療所における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・介田　圭／大学病院および歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・江越貴文／大学病院および兼業先歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・川久保　敦／大学病院および歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。 ・渥美克幸／歯科医院における実務経験／保存修復実習を指導することにより、齲蝕治療に必要な基本的知識と技術、ならびに医療に携わる者としてのふさわしい態度を修得する。

日程表(保存修復学実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	火	4～6	器具整備、顎模型の確認、ルーペの使用法 ・基本セット、バー、顎模型等のチェックを行う。 ・使用器具の名前を覚える。その際、類似の形態の物が多いので注意する。 ・歯科用ルーペの使用法を習得する。	平 介田 他	臨床実習室4B
2回	4	14	火	4～6	歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去、覆髄、裏層 ・歯科用ハンドピースや器材の把持法を習得する。 ・齲蝕の進行状態(齲蝕円錐)を考慮しながら罹患歯質の除去を行う。 ・染色液による齲蝕象牙質の判定法を習得する。	山田 他	臨床実習室4B
3回	4	21	火	4～6	診療姿勢、プレパレーションプレートを用いた切削練習 ・適切な診療姿勢を習得する。 ・プレパレーションプレートでタービンの操作に慣れる。	介田 他	臨床実習室4B
4回	4	28	火	4～6	インレー窩洞形成(1) ・スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞の形成を行う。 ・診療姿勢、ポジショニングに注意すること。	江越 他	臨床実習室4B
5回	5	12	火	4～6	インレー窩洞形成(2) ・Ⅱ級セラミック(コンポジットレジン)インレー窩洞の形成を行う。 ・メタルインレー窩洞との違いを理解する。	平 他	臨床実習室4B
6回	5	19	火	4～6	インレー窩洞の印象採得、咬合採得、仮封 ・上記の窩洞を完成させる。 ・スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞の印象採得、咬合採得、仮封を行う。	平 他	臨床実習室4B
7回	5	26	火	4～6	CR修復Ⅴ級 ・接着性コンポジットレジン修復用窩洞を形成し光重合型レジンで修復する。 ・接着性の意義、メカニズムを理解し、歯質の保存法を習得する。	介田 他	臨床実習室4B
8回	6	2	火	4～6	CR修復Ⅰ級 ・中心小窩の齲蝕が深部まで進行していることを想定し、修復を行う。 ・前回のCRⅤ級修復の仕上げ研磨を行う。	江越 他	臨床実習室4B
9回	6	9	火	4～6	CR修復Ⅲ級 ・唇側および舌側便宜拡大とプラスチック製隔壁を用いた修復を習得する。 ・前回のCRⅠ級修復の仕上げ研磨を行う。	山田 他	臨床実習室4B
10回	6	16	火	4～6	CR修復Ⅱ級 ・臼歯隣接面の修復に際し、マトリックス・リテーナーの使用法を習得する。 ・前回のCRⅢ級修復の仕上げ研磨を行う。	江越 他	臨床実習室4B
11回	6	23	火	4～6	CR修復Ⅳ級 ・前歯切縁の片側隅角を含んだ隣接面窩洞の修復を習得する。 ・前回のCRⅡ級修復の仕上げ研磨を行う。	山田 他	臨床実習室4B
12回	6	30	火	4～6	CR修復VI級 ・前歯切縁のシリコーンガイドを用いた修復を習得する。 ・前回のCRIV級修復の仕上げ研磨を行う。	山田 他	臨床実習室4B
13回	7	7	火	4～6	CR補修修復 ・CRを用いた補修修復法を修得する。 ・前回のCRVI級修復の仕上げ研磨を行う。	江越 他	臨床実習室4B
14回	7	14	火	4～6	グラスアイオノマーセメント修復 ・レジン添加型グラスアイオノマーセメントを用い、歯頸部齲蝕の修復を行う。 ・前回のCR補修修復の仕上げ研磨を行う。	介田 他	臨床実習室4B
15回	7	21	火	4～6	実技試験、グラスアイオノマーセメント修復の研磨、器具の点検・回収 ・総括的評価のため、実技試験を行う。 ・前回のレジン添加型グラスアイオノマーセメント修復の研磨を行う。 ・貸与器具であり、次年度の学生も使用するので、きれいに清掃して返却。	平 他	臨床実習室4B

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 水・3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034309 DNGD33071984 歯内治療学/ (Endodontology)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp/歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/随時 ※来室前に確認のこと

担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利, 岩下未咲, 栁口嘉治郎, 坂本英次郎, 石崎秀隆, 松裏貴史, 湯本浩通

授業の概要

齲蝕、歯冠破折等による炎症性病変が歯髄・根尖歯周組織まで波及した場合、歯髄の保存療法、抜髄、感染根管治療等が行われる。これらに関する理論的裏付けと基本的事項を十分把握し、疾患の病態、検査(診査)法、診断、処置、経過に関する理解を深める。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯髄・根尖歯周組織に生じる疾患の原因、種類、症状を含む具体的内容を理解し、実際の検査、診断、治療法を説明できる能力を習得する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態、症状、検査法、診断および治療法を説明できる。	D-2-⑥, E-3-2)-②, E-3-3)-(2)-①
2.	歯痛の機序を説明できる。	E-3-2)-⑤
3.	歯髄保護の意義、種類と方法を説明できる。	E-3-3)-(1)-⑤
4.	根管充填の目的、時期および方法を説明できる。	E-3-3)-(2)-②
5.	偶発症について、種類、処置及び予防法を説明できる。	E-3-3)-(2)-③
6.	歯髄・根尖性歯周疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。	E-3-3)-(2)-④
7.	外科的歯内療法の種類と適応を説明できる。	E-3-3)-(2)-⑤
8.	失活歯の変色の原因、種類および処置法を説明できる。	E-3-3)-(2)-⑥
9.	歯根吸収の原因、症状、診断および処置法を説明できる。	E-3-3)-(2)-⑦

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基本的に教科書とスライドを用いた講義を行い、必要に応じてプリントを配付する。

授業内容

1 回目 序論:歯内治療の目的・概略を学習
2 回目 検査(診査)、診断:各種検査(診査)法、臨床診断名と臨床症状
3 回目 歯髄除去療法(1):抜髄(1)適応症、髄室開拡、根管長測定
4 回目 歯髄除去療法(2):抜髄(2)根管拡大・形成
5 回目 歯髄除去療法(3):抜髄(3)根管充填、術後経過
6 回目 歯髄保存療法:鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC 法、アペキソゲネーシス
7 回目 歯髄除去療法(4):生活歯髄切断法、歯髄創傷治癒過程
8 回目 歯髄除去療法(5):根管貼薬、根管洗浄、仮封
9 回目 歯根吸収、漂白:原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法
10 回目 感染根管治療(1):適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション
11 回目 感染根管治療(2):根管消毒、根管充填、術後経過
12 回目 偶発症、応急処置、外傷:原因、検査(診査)、処置・対応
13 回目 外科的歯内治療、歯内ー歯周疾患:根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用
14 回目 高齢者の歯内治療:歯、歯髄および根尖歯周組織の一般的特徴、歯内治療における留意点
15 回目 マイクロスコープを応用した歯内療法

キーワード	歯髄・根尖性歯周疾患、予防、診査、診断、処置、治癒機転
教科書・教材・参考書	教科書：エンドドンテイクス第7版 （永末書店） 教科書：歯内治療学第5版（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う（再試までとする）。
受講要件（履修条件）	口腔生命科学基礎科目の復習を各自行う。
備考（学生へのメッセージ）	歯髄と根尖歯周組織に生じる疾患の概要と治療の進め方の基本を理解する。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・岩下　未咲／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・栁口　嘉治郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・坂本英次郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・石崎秀隆／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・松裏貴史／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。 ・湯本浩通／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯内治療に必要な基本的知識，技術をスライドや動画を用いて解説する。

日程表(歯内治療学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	1	序論： 歯内治療の目的と概略を学習	吉村	講義室6A
2回	4	1	水	2	検査(診査)、診断: 各種検査(診査)法、臨床診断名と臨床症状	岩下	講義室6A
3回	4	1	水	3	歯髄除去療法（１）： 抜髄(1)適応症、髄室開拡、根管長測定	栁口	講義室6A
4回	4	8	水	3	歯髄除去療法（２）： 抜髄(2)根管拡大・形成	石崎	講義室6A
5回	4	15	水	3	歯髄除去療法（３）： 抜髄(3)根管充填、術後経過	栁口	講義室6A
6回	4	22	水	3	歯髄保存療法： 鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC法、アペキソゲネーシス	吉村	講義室6A
7回	5	13	水	3	歯髄除去療法（４）： 生活歯髄切断法、歯髄創傷治癒過程	岩下	講義室6A
8回	5	27	水	3	歯髄除去療法（５）： 根管貼薬、根管洗浄、仮封	岩下	講義室6A
9回	6	10	水	3	歯根吸収、漂白： 原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法	坂本	講義室6A
10回	6	17	水	3	感染根管治療（１）： 適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション	栁口	講義室6A
11回	6	24	水	3	感染根管治療（２）： 根管消毒、根管充填、術後経過	湯本	講義室6A
12回	7	1	水	3	偶発症、応急処置、外傷： 原因、検査(診査)、処置・対応	坂本	講義室6A
13回	7	8	水	3	外科的歯内治療、歯内ー歯周疾患: 根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用	坂本	講義室6A
14回	7	15	水	3	高齢者の歯内治療: 歯、歯髄および根尖歯周組織の一般的特徴、歯内治療における留意点	吉村	講義室6A
15回	7	22	水	3	マイクロスコープ: マイクロスコープを応用した歯内療法	松裏	講義室6A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時　水・4～6	必修選択　必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034310 DNGD33081984 歯内治療学実習/(Endodontics practice)		
対象年次 4 年次	講義形態　実習形式	教室　臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp /歯周歯内治療学分野医局/095-819-7681(内 7681)/実習後			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、栁口嘉治郎、岩下未咲、坂本英次郎、尾崎幸生、松裏貴史、大平真之		

授業の概要

齲蝕、歯冠破折等による炎症性病変が歯髄・根尖歯周組織まで波及した場合、抜髄、感染根管治療等が行われる。これらに関する基本的技術を、シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))を通して習得する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯内治療に必要な検査法、診断および治療法を理解し、これらをシミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))を通して習得する。

個別行動目標 SBOs:　【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

1. 歯科治療に必要な器材の準備、片付けができる。　F-3-1)-②
2. ラバーダム防湿ができる。　F-3-1)-③
3. 歯髄・根尖性歯周疾患の簡単な治療を実施できる。　F-3-3)-③
4. 根管長測定の必要性を患者に説明し、実施できる。　F-2-2)-⑦

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

髄腔歯牙模型を用いた模型実習を行う。また、歯髄診断法に関しては相互実習を行う。

授業内容

1 回目　オリエンテーション・器具整備・髄室開拡(1)
2 回目　髄室開拡(2)・ブローチ綿栓作製
3 回目　抜髄法(1)
4 回目　抜髄法(2)・根管長測定法
5 回目　抜髄法(3)
6 回目　抜髄法(4)・歯髄電気診(1)
7 回目　抜髄法(5)・歯髄電気診(2)
8 回目　根管充填(1)・ラバーダム防湿法(1)
9 回目　根管充填(2)・ラバーダム防湿法(2)
10 回目　感染根管治療(1)
11 回目　感染根管治療(2)
12 回目　根管充填(3)・根管内細菌培養検査
13 回目　根管充填(4)
14 回目　エックス線写真の読影・根管充填材の除去・隔壁形成法
15 回目　総括的評価のための実技試験・器具整備

キーワード	抜髄、感染根管治療、根管充填
教科書・教材・参考書	教材として、初回実習時に当教室で作成した「歯内治療学実習帳」を配布する。
成績評価の方法・基準等	実習態度、各実習項目における成果および総括的評価のための実技試験をもとに評価を行う。
受講要件(履修条件)	開講された実習の 4 分の 3 以上出席している者。
備考(学生へのメッセージ)	歯内治療学は歯科臨床の根幹をなす重要な分野であり、歯内治療の習熟なくして歯科治療の成功はなし得ない。実習に先立ち、配布する実習帳をよく読んで内容を予習しておくこと。

実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・岩下　未咲／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・坂本英次郎／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・尾崎　幸生／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・松裏　貴史／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。 ・栁口嘉治郎／歯科保存治療室での勤務経験／抜髄や感染根管治療及び根管充填に必要な基本知識及び術式の修得のため歯牙模型を用いて行う模型実習の指導を行う。

日程表(歯内治療学実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	4～6	オリエンテーション・器具整備・髄室開拡(1) ・歯内実習用器具の貸出・点検 ・手持ちで上顎前歯・小臼歯(11, 14)の髄室開拡	教員5名	臨床実習室4B
2回	4	8	水	4～6	髄室開拡(2)・ブローチ綿栓作製 ・手持ちで上下顎大臼歯(16, 46)の髄室開拡 ・ブローチ綿栓の作成	教員5名	臨床実習室4B
3回	4	15	水	4～6	抜髄法(1) ・上顎前歯(11)の髄室開拡, およびスタンダード法で根管拡大・形成	教員5名	臨床実習室4B
4回	4	22	水	4～6	抜髄法(2)・根管長測定法 ・上顎前歯(11)の貼薬および仮封 ・電気的根管長測定法	教員5名	臨床実習室4B
5回	5	13	水	4～6	抜髄法(3) ・スタンダード法で上顎臼歯(14, 26)の抜髄	教員5名	臨床実習室4B
6回	5	20	水	4～6	抜髄法(4)・歯髄電気診(1) ・Ni-Tiファイルによる J字ブロックの根管拡大・形成(1, 2, 3班) ・歯髄電気診(相互実習; 4, 5班) ・第5回実習の続き	教員5名	臨床実習室4B
7回	5	27	水	4～6	抜髄法(5)・歯髄電気診(2) ・Ni-Tiファイルによる J字ブロックの根管拡大・形成(4, 5班) ・歯髄電気診(相互実習; 1, 2, 3班) ・第5回実習の続き	教員5名	臨床実習室4B
8回	6	3	水	4～6	根管充填(1)・ラバーダム防湿法(1) ・上顎前歯・小臼歯(11, 14)の根管充填 ・下顎小臼歯のラバーダム防湿法(1,2班)	教員5名	臨床実習室4B
9回	6	10	水	4～6	根管充填(2)・ラバーダム防湿法(2) ・上顎大臼歯(26)の根管充填 ・下顎小臼歯のラバーダム防湿法(3,4,5班)	教員5名	臨床実習室4B
10回	6	17	水	4～6	感染根管治療(1) ・ステップバック法で下顎小臼歯(45)の感染根管治療 ・ステップバック法で上顎大臼歯(26)の感染根管治療	教員5名	臨床実習室4B
11回	6	24	水	4～6	感染根管治療(2) ・ステップバック法で下顎人臼歯(36)の感染根管治療	教員5名	臨床実習室4B
12回	7	1	水	4～6	根管充填(3)・根管内細菌培養検査 ・下顎小臼歯(45)の根管充填 ・第10回実習の続き ・根管内細菌培養検査(デモのみ)	教員5名	臨床実習室4B
13回	7	8	水	4～6	根管充填(4) ・下顎大臼歯(36)の根管充填 ・上顎大臼歯(26)の根管充填	教員5名	臨床実習室4B
14回	7	15	水	4～6	X線写真読影・根管充填材除去・隔壁形成法 ・X線写真読影 ・GPソルベントを用いた根管充填材の除去 ・フロアブルレジンを用いた隔壁形成法	教員5名	臨床実習室4B
15回	7	22	水	4～6	総括的評価のための実技試験・器具整備 ・上顎小臼歯(14) ・歯内実習用器具の点検・回収	教員5名	臨床実習室4B

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 月 1～2	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034321 DNGD33091989 歯周病学/(Lecture of Periodontology)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp/長崎大学病院 8 階歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、岩下未咲、栁口嘉治郎、坂本英次郎、金子高士(非常勤講師)、吉永泰周(非常勤講師)		

授業の概要

歯周病学と歯周治療学の理解を高める。歯周疾患の特徴を知り、その治療法について学ぶ。歯周組織の正常と異常、歯周疾患の分類、歯周疾患の原因、歯周基本治療、歯周外科、歯周再生治療、メインテナンスについての講義を行う。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯周疾患の原因、種類、症状を含む具体的内容を理解し、実際の検査、診断、治療法を説明できる能力を習得する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.歯周組織の正常と異常の相違を説明できる。	E-3-2)-③、 E-3-3)-(3)-②
2.歯周疾患の原因を説明できる。	E-3-2)-③、 E-3-2)-④
3.歯周疾患の治療法を説明できる。	E-3-3)-(3)-③、 E-3-3)-(3)-④
4.歯周疾患の予防法を説明できる。	E-3-3)-(3)-⑤
5.歯周疾患と全身疾患の関連を説明できる。	E-3-3)-(3)-①

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基本的にスライドを用いた講義を行い、必要に応じてプリントを配付する。

授業内容

1 回目 歯周病学総論・正常歯周組織と病的歯周組織
2 回目 歯周疾患の原因
3 回目 歯周組織検査
4 回目 プラークコントロール(1)
5 回目 プラークコントロール(2)
6 回目 スケーリング・ルートプレーニング(1)
7 回目 スケーリング・ルートプレーニング(2)
8 回目 歯内歯周病変・根分岐部病変の処置
9 回目 歯周外科(1)
10 回目 歯周病と全身疾患・リスクファクター
11 回目 歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患
12 回目 咬合調整・固定
13 回目 歯周外科(2)
14 回目 MTM・歯周補綴
15 回目 メインテナンス

キーワード	歯周病、歯周疾患、歯周治療
教科書・教材・参考書	教科書:ザ・ペリオドントロジー　第 4 版 （永末書店）、　臨床歯周病学 第 3 版 （医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	学期末に選択または記述式の試験を行い評価する。
受講要件(履修条件)	開講された講義の3分の2以上に出席している者
備考(学生へのメッセージ)	歯周病学は歯科医療の根幹をなし、また歯科における再生医療の中核ともいえる分野である。 また近年の学問領域の発展は目覚ましい。生物学に基づいた最新の歯周病学を修得するためにも 基礎科目（口腔領域）の知識は必須であるので、復習しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・岩下未咲／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・栁口嘉治郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・坂本英次郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・金子高士／福岡歯科大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・吉永泰周／福岡歯科大学病院における診療実務経験／診療経験をもとにした臨床歯学分野の研究内容を講義する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	28	月	1～2	歯周病学総論・正常歯周組織と病的歯周組織	岩下 吉村	講義室6A
2回	9	28	月	4～6	歯周疾患の原因	坂本	講義室6A
3回	10	5	月	1～2	歯周組織検査	吉村	講義室6A
4回	10	19	月	1～2	プラークコントロール(1)	岩下	講義室6A
5回	10	26	月	1～2	プラークコントロール(2)	柳口	講義室6A
6回	11	2	月	1～2	スケーリング・ルートプレーニング(1)	岩下	講義室6A
7回	11	9	月	1～2	スケーリング・ルートプレーニング(2)	吉村	講義室6A
8回	11	16	月	1～2	歯内歯周病変・根分岐部病変の処置	吉永	講義室6A
9回	11	30	月	1～2	歯周外科(1)	吉村	講義室6A
10回	12	7	月	1～2	歯周病と全身疾患・リスクファクター	柳口	講義室6A
11回	12	14	月	1～2	歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患	坂本	講義室6A
12回	12	21	月	1～2	咬合調整・固定	金子	講義室6A
13回	1	4	月	1～2	歯周外科(2)	吉村	講義室6A
14回	1	18	月	1～2	歯周矯正・歯周補綴	吉村	講義室6A
15回	1	25	月	1～2	インテナンス	吉村	講義室6A

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 月・4～6	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034322 DNGD33101989 歯周病学実習/(Basic Training of Periodontology)		
対象年次 4 年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B・スキルスラボセンター	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 II	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp /長崎大学病院 8 階歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、岩下未咲、柳口嘉治郎、坂本英次郎、尾崎幸生、松裏貴史		

授業の概要

歯周病学の知識に基づいて、病因の解析、歯周疾患の診断・治療・予防に関する手技を修得する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯周治療に必要な歯周検査、口腔衛生指導、歯周外科を理解し、その手技をシミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))を通して習得する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	歯周疾患の検査法を説明、実施できる。	E-3-3
2.	プラーク染め出し、口腔衛生指導が実施できる。	E-3-3
3.	歯周疾患の簡単な処置(スケーリング・ルートプレーニング)を実施できる。	F-2-2, F-3-3
4.	模型上で暫間固定や歯周外科を行える。	E-3-3, F-3-3

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
歯周組織の診査、歯周基本治療(口腔清掃指導、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整)、歯周外科に関して、顎模型を用いた実習と相互実習を行う。

授業内容

1 回目 歯周組織検査 (1)
2 回目 歯周組織検査 (2)
3 回目 歯周組織検査 (3)
4 回目 プラークコントロール・モチベーション (1)
5 回目 プラークコントロール・モチベーション (2)
6 回目 スケーリング・ルートプレーニング (1)
7 回目 スケーリング・ルートプレーニング (2)
8 回目 スケーリング・ルートプレーニング (3)
9 回目 スケーリング・ルートプレーニング (4)
10 回目 咬合診査と咬合調整 (1)
11 回目 咬合診査と咬合調整 (2)
12 回目 暫間固定
13 回目 歯周外科 (1)
14 回目 歯周外科 (2)
15 回目 歯周外科 (3)

キーワード	歯周治療学
教科書・教材・参考書	教科書は特に使用しない。参考書は授業開始時に適当なものを紹介する。 歯周病学基礎実習動画(日本歯周病学会監修)を実習前に確認しておくこと。 (http://www.perio.jp/news/basic_practice.shtml)
成績評価の方法・基準等	各実習項目の成果とレポートを参考に判定する。

受講要件(履修条件)	開講された実習の4分の3以上出席している者。
備考(学生へのメッセージ)	歯周治療は歯科医療の根幹をなす重要な分野であり、歯周治療の習熟なしでは歯科医療の成功はなしえない。本実習では、歯周治療の基本である口腔清掃指導、SRP などの処置法を修得する。実習に先立って行われる歯周病学の講義を復習しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・吉村　篤利／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・岩下　未咲／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・柳口　嘉治郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・坂本　英次郎／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・尾崎　幸生／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・松裏　貴史／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。 ・大平　真之／現役歯科医師が病院歯科における実務経験／歯周治療に必要な基本的知識，技術を模型実習および相互実習により指導する。

日程表(歯周病学実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	5	月	4～6	歯周組織検査 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
2回	10	19	月	4～6	歯周組織検査 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
3回	10	26	月	4～6	歯周組織検査 (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
4回	11	2	月	4～6	プラークコントロール・モチベーション (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
5回	11	9	月	4～6	プラークコントロール・モチベーション (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
6回	11	16	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
7回	11	30	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
8回	12	7	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
9回	12	14	月	4～6	スケーリング・ルートプレーニング (4)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
10回	12	21	月	4～6	咬合診査と咬合調整 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
11回	1	4	月	4～6	咬合診査と咬合調整 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
12回	1	18	月	4～6	暫間固定	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
13回	1	25	月	4～6	歯周外科 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
14回	2	1	月	1～2	歯周外科 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
15回	2	1	月	4～6	歯周外科 (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ

年度 2026 学期 通年	曜日・校時 木・4～7	必修選択 必修	単位数 4
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034313 DNGD33111985 冠橋義歯学及び同実習/ (Fixed Prosthodontics)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 前期 講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学分野教授室/095-819-7685(内 7685)/8:00～8:50、12:10～13:00			
担当教員	澤瀬 隆、尾立哲郎、右藤友督、張暁旭、小堤涼平、山本英幸、津田芙未香, 竹中広登(病院中央技工室技工士)、非常勤講師、他 TA		

授業の概要

本科目は, 冠橋義歯学のイントロであり, 5年, 6年へとその内容をより高度に, より臨床的にシフトさせながら卒業までの3年間かけてマスターしてもらう。中途にバリヤーとして設定されている CBT や OSCE にも対応できるように留意しており, 国試への対策も念頭に置いている。また, 必修化された1年間の卒後研修にも, スムーズに移行できるように配慮している。

最終学年では担当した患者のクラウンとブリッジは自分で製作しなければならない。そのためには知識のみならず, 基本的手技の習得も必要である。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部欠損に対する補綴治療の臨床的意義と方法を理解する. 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	咬合の正常像と咬合・咀嚼障害を説明する.	E-3-4)-(1) ①
2.	CrBrの意義, 要件, 種類、特徴, 臨床成績を説明できる. [知識]	E-3-4)-(1) ①
3.	CrBrの治療計画を立案するための医療面接, 診察, 検査, 診断を説明する. [知識]	E-3-4)-(1) ①
4.	CrBrの感染予防, 医療安全, 医療倫理を説明できる. [知識]	E-3-4)-(1) ①
5.	CrBrの製作法(CAD/CAM を含む)を説明できる. [知識]	E-3-4)-(1) ②, ⑧, ⑨
6.	CrBrの臨床操作を説明できる(前処置, 支台築造, 支台歯形成, プロビジョナルレストレーション, 印象採得, 顎間関係の記録(咬合採得), 患者情報の記録と伝達, 装着, 術後管理). [知識]	E-3-4)-(1) ③～⑦, ⑩～⑬
7.	CrBrによる補綴治療の各基本的操作を実施できる(支台築造, プロビジョナルレストレーション, 精密印象採得, 咬合採得). [技能]	F-3-4) ②, ③, ⑤, ⑥, ⑧

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法):講義と実習の進行を並行して行い, 知識に基づく基本的な手技をマスターする。

授業内容:講義;対応するコアカリ項目

1:クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績;E-3-4)-(1) ①
2:咬合・咀嚼障害;E-3-4)-(1) ①
3:診察と診断と感染予防;E-3-4)-(1) ①
4:治療を左右する因子・クラウンブリッジの要件;E-3-4)-(1) ②
5:クラウンの種類;E-3-4)-(1) ②
6:ブリッジの種類と構成;E-3-4)-(1) ②
7:クラウンブリッジの設計;E-3-4)-(1) ②
8:インフォームドコンセント・前処置;E-3-4)-(1) ①②
9:支台歯形成;E-3-4)-(1) ③④
10 支台築造;E-3-4)-(1) ③④
11:印象採得;E-3-4)-(1) ⑤⑥
12:プロビジョナルレストレーション・患者情報の記録;E-3-4)-(1) ⑤⑥
13:咬合採得;E-3-4)-(1) ⑤⑦⑨
10:作業模型の製作;E-3-4)-(1) ⑧
11:ワックスパターン形成;E-3-4)-(1) ②
12:埋没・鋳造・熱処理・研磨;E-3-4)-(1) ②
13:CAD/CAM によるクラウンブリッジの製作;E-3-4)-(1) ①②⑧⑨
14:装着・術後管理・装着後に発生する問題と対応;E-3-4)-(1) ⑩⑪⑫
15:レジン前装冠・コンポジットレジンジャケット冠;E-3-4)-(1) ②
16:陶材焼付冠・連結法(p292);E-3-4)-(1) ②
17:オールセラミックスクラウン;E-3-4)-(1) ②
17:オーラルアプライアンス・高齢者要介護者の CrBr 補綴;E-5-1)-①⑤
18:歯周病患者・顎関節症患者のクラウンブリッジ補綴;E-5-1)-①⑤

:実習; E-3-4)-(1) ②,③,④,⑤,⑦,⑧,⑨,
F-3-4) ②,③,⑤,⑥,⑧
1:ドローイング・カービング
2:レジン前装冠支台歯形成
3:全部金属冠支台歯形成
4:個歯トレー・個人トレーの製作
5:クラウン精密印象, 作業模型, 咬合器付着
6:レジン前装冠ワックスアップ
7:レジン前装冠埋没・鋳造・研磨
8:レジン前装, 研磨
9:築造窩洞形成・印象・レジンコアの製作
10:ブリッジ支台歯形成
11:ブリッジろう着
12:暫間被覆冠の製作
13:クラウンワックスアップ
14:CAD/CAM 冠支台歯形成
15:光学印象採得
16:デジタルワックスアップ(CAD)
17:機械加工による製造(CAM)
18:制作物提出・器具返却

キーワード	クラウンブリッジ、歯冠修復、欠損補綴、固定性補綴
教科書・教材・参考書	[講義]クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)[実習]クラウンブリッジテクニック(医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	講義の成績評価は，前期、後期定期試験で合否を判定する．60 点に満たない場合は，再試験を一回行う．実習は実習態度、成果物を基に評価を行う．60 点に満たない場合は，追加課題を課す．試験，実習いずれも 60 点以上獲得した者を本科目の合格者とする．
受講要件(履修条件)	規定通り
備考(学生へのメッセージ)	授業時間だけでは，消化しきれない内容が含まれているので予め教科書を読んでおき，1年間，欠かさず出席してほしい。
実務経験のある教員による授業科目	・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・尾立　哲朗／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・作山　葵／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・右藤　友督／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・張　暁旭／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・小堤　涼平／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・山本英幸／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・津田芙未香／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・平　曜輔／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・鎌田　幸治／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・竹中　広登／長崎大学病院における歯科技工実務経験／大学病院におけるデジタル歯科技工の経験を元に、冠橋義歯学に関する実習を実施する。 ・内田　悠介／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における冠橋補綴治療の経験を元に、冠橋義歯学に関する講義、実習を実施する。 ・佐々木　猛／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／一般歯科臨床における包括的歯科医療の中での歯周補綴治療について教示する ・武田　孝之／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／一般歯科臨床における包括的歯科医療の中での欠損補綴治療について教示する

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	木	4～7	Ⅳ講義：クラウンブリッジ補綴学とは，補綴歯科治療のEBM（1-Ⅰ，Ⅱ）	澤瀬	講義室6A
					Ⅴ講義：咬合・歯周組織の正常像と咬合異常・咀嚼障害（1-Ⅲ）	尾立	講義室6A
					Ⅵ講義：診察・検査・診断と治療計画の立案（1-Ⅳ）	澤瀬	講義室6A
					Ⅶ講義：診察・検査・診断と治療計画の立案（1-Ⅳ）	澤瀬	講義室6A
2回	4	9	木	4～7	Ⅳ講義：医療安全と感染対策（1-Ⅴ）	尾立	講義室6A
					Ⅴ講義：クラウンブリッジの要件（1-Ⅵ）	尾立	講義室6A
					Ⅵ講義：クラウンの種類（1-Ⅶ）	澤瀬	講義室6A
					Ⅶ実習：ドローイング	右藤他	臨床実習室4B
3回	4	16	木	4～7	Ⅳ講義：インフォームドコンセント・前処置（2-Ⅰ，Ⅱ）	尾立	講義室6A
					Ⅴ講義：前処置続き（2-Ⅱ）	尾立	講義室6A
					Ⅵ,Ⅶ実習：カービング	右藤他	臨床実習室4B
4回	4	23	木	4～7	Ⅳ講義：支台歯形成（2-Ⅲ）	尾立	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：レジン前装冠支台歯形成	右藤他	臨床実習室4B
5回	4	30	木	4～7	Ⅳ講義：印象採得（2-Ⅴ）	澤瀬	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：全部金属冠支台歯形成	右藤他	臨床実習室4B
6回	5	7	木	4～7	Ⅳ講義：プロビジョナルレストレーション・患者情報の記録と伝達（2-Ⅵ，Ⅷ）	右藤	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：全部金属冠 概形印象・個歯トレー・個人トレーの製作	右藤他	臨床実習室4B
7回	5	14	木	4～7	Ⅳ講義：顎間関係の記録（咬合採得）（2-Ⅶ）	澤瀬	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：前装冠精密印象・作業模型1	右藤他	臨床実習室4B
8回	5	21	木	4～7	Ⅳ講義：作業用模型の製作（3-Ⅰ）	澤瀬	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：金属冠精密印象・作業模型2	右藤他	臨床実習室4B
9回	5	28	木	4～7	Ⅳ講義：咬合器装着（3-Ⅱ）	張	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：咬合器付着・前装冠ワックスアップ1	右藤他	臨床実習室4B

10回	6	4	木	4～7	Ⅳ講義：ロストワックス法（ワックスアップ）（3-ⅢA）	澤瀬	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：前装冠ワックスアップ2	右藤他	臨床実習室4B
11回	6	11	木	4～7	Ⅳ講義：ロストワックス法（埋没・鋳造・熱処理・研磨）（3-ⅢB,C）	尾立	講義室6A
					Ⅴ-Ⅶ実習：前装冠ワックスアップ3・ワックスパターン埋没	右藤他	臨床実習室4B
12回	6	18	木	4～7	Ⅳ-Ⅶ実習：前装冠ワックスパターン埋没・鋳造	右藤他	臨床実習室4B
13回	6	25	木	4～7	Ⅳ-Ⅶ実習：鋳造・レジン前装1	右藤他	臨床実習室4B
14回	7	2	木	4～7	Ⅳ,Ⅴ講義：特別講義（非常勤講師）	武田	講義室6A
					Ⅵ,Ⅶ実習：前装冠レジン前装2	右藤他	臨床実習室4B
15回	7	9	木	4～7	Ⅳ-Ⅶ実習：前装冠咬合調整・研磨・前装・提出	右藤他	臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	10	1	木	4～7	Ⅳ講義：支台築造（2-Ⅳ） Ⅴ-Ⅶ実習：築造窩洞形成・精密印象・作業模型	右藤 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
17回	10	8	木	4～7	Ⅳ講義：ブリッジの種類（1-Ⅷ） Ⅴ-Ⅶ実習：ファイバーポストを使用したレジンコア製作	澤瀬 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
18回	10	15	木	4～7	Ⅳ講義：ブリッジの設計（1-Ⅸ，Ⅹ） Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジ支台歯形成	澤瀬 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
19回	10	22	木	4～7	Ⅴ講義：ブリッジの製作（3-Ⅸ）モノリシック以外 Ⅴ-Ⅶ実習：ブリッジろう付け（デモ）・ポンティック基底面形態の観察	澤瀬 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
20回	10	29	木	4～7	Ⅳ講義：ブリッジの製作の続き，接着ブリッジ Ⅴ-Ⅶ実習：暫間被覆冠の製作	澤瀬 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
21回	11	5	木	4～7	Ⅳ講義：レジン前装冠，陶材焼付冠の製作（3-Ⅴ，Ⅵ） Ⅴ-Ⅶ実習：クラウン作業用模型製作・ワックスアップ1	右藤 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
22回	11	12	木	4～7	Ⅳ講義：CAD/CAM法 Ⅴ講義：モノリシックジルコニアブリッジの製作 Ⅵ-Ⅶ実習：クラウンワックスアップ2	右藤 右藤 右藤他	講義室6A 講義室6A 臨床実習室4B
23回	11	19	木	4～7	Ⅳ講義：CAD/CAM法，ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの製作 Ⅴ-Ⅶ実習：クラウンワックスアップ3	右藤 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
24回	11	26	木	4～7	Ⅳ講義：オールセラミックスクラウンとラミネートベニアの製作 Ⅴ-Ⅶ実習：マネキンを用いてCAD/CAM冠支台歯形成（小臼歯大臼歯）	右藤 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
25回	12	3	木	4～7	Ⅳ講義：口腔内試適と装着 Ⅴ-Ⅶ実習：口腔内スキャナーによる印象採得	尾立 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B

26回	12	10	木	4～7	Ⅳ講義：術後管理 Ⅴ-Ⅶ実習：CADソフトウェアを使用した補綴装置設計1	尾立 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
27回	12	17	木	4～7	Ⅳ講義：装着後に発生する問題とその対応 Ⅴ-Ⅶ実習：CADソフトウェアを使用した補綴装置設計2	尾立 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
28回	1	7	木	4～7	Ⅳ講義：オーラルアプライアンス，口腔顔面痛，顎関節症 Ⅴ-Ⅶ実習：CAMの工程説明（ミリングマシン）・3Dプリンターデモ	作山 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
29回	1	14	木	4～7	Ⅳ，Ⅴ講義：特別講義（非常勤講師） Ⅵ，Ⅶ実習：製作物評価	佐々木 右藤他	講義室6A 臨床実習室4B
30回	1	28	木	4～7	Ⅳ講義：高齢者・要介護者・障害者におけるCrBr治療と訪問診療 Ⅳ-Ⅶ実習：製作物提出，器材返却	張 右藤他	臨床実習室4B

年度 2026 学期 通年	曜日・校時 金・4～7	必修選択 必修	単位数 4
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034325 DNGD33121985 有床義歯補綴学及び同実習/(Plate Denture Prosthodontics)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A, 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司/ hmurata@nagasaki-u.ac.jp /病院 8 階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/金曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	講義:村田比呂司, 原田佳枝, 鳥巣哲朗, 吉田和弘, 岡﨑ひとみ, 二川浩樹(非常勤講師), 秋山謙太郎(非常勤講師) 実習:吉田和弘, 原田佳枝, 鳥巣哲朗, 岡﨑ひとみ, 野黒美麻由子		

授業の概要

歯科医師として有床義歯の臨床に必要な基礎的知識と技術を習得する。そのため授業では部分床義歯補綴学および全部床義歯補綴学の理論を考究する。また実習では義歯の基本的な製作法を学び, 技術を習得する。

授業到達目標

一般目標 GIO:有床義歯の臨床に必要な基礎的知識と技術を習得する。	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs:	
歯の欠損, 顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。	E-3-4)-(2)-①
有床義歯の種類, 目的, 意義, 特徴及び適応症を説明できる。	E-3-4)-(2)-②, ③
有床義歯の構成要素と支持, 把持, 維持の機構並びに設計原則を説明できる。	E-3-4)-(2)-④, ⑤
有床義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明でき, 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑥, ⑦
調節性咬合器の基本的操作方法, フェイスボウトランスファー, チェックバイト法を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑧
有床義歯の咬合様式とその意義を説明でき, 人工歯の選択を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑨, ⑩
有床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法および製作過程を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑪, ⑫
有床義歯の装着, 調整, メインテナンス及び修理を説明できる。	E-3-4)-(2)-⑬, ⑭

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義は教科書の内容を中心に, パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い, 講義資料は LACS にあげておく。実習ではステップごとにその概説があり, 主要な項目は教員がデモ示説する。非常勤講師による特別講義も計画している。

授業内容

全部床義歯補綴学ついで部分床義歯補綴学の講義を行う。同時に義歯製作の実習も進行する。

1 回目 L-F1～4:総論1～4
2 回目 L-F5～8:治療1～4
3 回目 P-1:FD 概形印象
4 回目 L-F9～12:治療 5～8
5 回目 P-2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着
6 回目 L-F13～16:治療 9～12
7 回目 P-3:FD 人工歯排列
8 回目 P-4:FD 人工歯排列
9 回目 L-F17～18:治療 13～14, P-4:FD 人工歯排列
10 回目 P-5:歯肉形成, 下顎義歯埋没
特別講義(バイオフィルム研究)
11 回目 P-6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合
12 回目 P-7:上顎義歯重合, 割り出し
13 回目 P-8:リマウント, 咬合調整, 研磨
14 回目 P-9:咬合調整, 研磨
特別講義(タイトル未定)
15 回目 P-10:自動削合, 研磨, 器具チェック
16 回目 P-11:自動削合, 研磨, 作品提出
17 回目 L-P1～4:総論1～4
18 回目 L-P5～8:総論 5～8
19 回目 P-12:概形印象 診断用模型調整
20 回目 L-P9～12:総論 9～10, 治療1～2
21 回目 P-13:個人トレー, 補綴的前処置
22 回目 L-P13～16:治療 3～6
23 回目 P-14:印象 模型の調整, サベイング
24 回目 P-15:ブロックアウト, リリーフ
25 回目 P-16:耐火模型作製
26 回目 L-P17～18:治療 7～8, P-17: ワックスアップ
27 回目 P-18:埋没, 咬合床作製
28 回目 L-FP1～4:種々の義歯 1～4
29 回目 P-19:鋳造, 研磨, 咬合採得
30 回目 P-20:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック

注意:6月 19 日は休校、7 月 24 日は補講日

［注:講義 ・・・ L-F:全部床義歯, L-P:部分床義歯, L-FP:全部床義歯,部分床義歯共通, P:実習］

（実習・講義の進行等により授業の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。）

キーワード	部分床義歯補綴学，全部床義歯補綴学，咀嚼機能，咬合
教科書・教材・参考書	教科書：無歯顎補綴治療学 第4版（市川哲雄他 編；医歯薬出版），歯学生のパーシャルデンチャー 第7版（志賀博他 編；医歯薬出版） 参考書：コンプリートデンチャーテクニック 第 6 版（細井紀雄他 編；医歯薬出版），パーシャルデンチャーテクニック 第6版（大久保力廣他 編；医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験（前期 1 回，後期 1 回）と実習の評価をあわせて，総合的に評価する。それぞれの評価比率は，定期試験 80%（前期，後期それぞれ 40%），実習 20%とする。また授業への貢献度も評価の対象とする。ただし前期試験，後期試験，実習の評価のうち，4割未満がひとつでもあると，総評価が6割以上でも，再試験の対象となる。再試験は前期と後期の全範囲とする。
受講要件(履修条件)	前期，後期，それぞれ総授業時間の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	教科書の内容は基本となるので，最低限理解する必要がある。教科書は必ず所持すること。 実習室を使用後は整理整頓し，きれいに清掃すること。
実務経験のある教員による授業科目	・村田　比呂司／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・原田佳枝／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・鳥巣　哲朗／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・吉田　和弘／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・岡﨑ひとみ／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・野黒美麻由子／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・二川　浩樹／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・秋山謙太郎／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／臨床および技工の経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	金	4～7	[L-F1:総論1] 全部床義歯，無歯顎の病因と病態 [L-F2:総論2] 全部床義歯，無歯顎の病因と病態 [L-F3:総論3] 加齢に伴う変化，補綴装置としての全部床義歯 [L-F4:総論4] 全部床義歯装着者にみられる主要症候等	村田 村田 鳥巣 鳥巣	講義室6A
2回	4	10	金	4～7	[L-F5:治療1] 医療面接とインフォームドコンセント [L-F6:治療2] 診察，検査，診断 [L-F7:治療3] 治療計画の立案，前処置 [L-F8:治療4] 印象採得，(フレンジ)	原田 原田 鳥巣 鳥巣	講義室6A
3回	4	17	金	4～7	[P-1:FD概形印象]実習説明，概形印象採得，診断用模型作製，作業用模型(ゴム枠)作製	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
4回	4	24	金	4～7	[L-F9 :治療5] 顎間関係の記録 [L-F10:治療6] 顎間関係の記録2 [L-F11:治療7] 下顎運動の記録と咬合器装着 [L-F12:治療8] 咬合器	吉田 吉田 鳥巣 鳥巣	講義室6A
5回	5	1	金	4～7	[P-2:FD精密印象，咬合床作製，咬合採得，咬合器付着] 個人トレー作製(印象採得は説明のみ),咬合床作製，咬合採得，咬合器付着	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
6回	5	8	金	4～7	[L-F13:治療9] 人工歯，人工歯排列1 [L-F14:治療10] 人工歯排列2，フレンジ [L-F15:治療11] 歯肉形成，ろう義歯，埋没 [L-F16:治療12] 重合，咬合器再装着	鳥巣 鳥巣 原田 原田	講義室6A
7回	5	15	金	4～7	[P-3:FD人工歯排列]人工歯排列(上顎前歯部，下顎前歯部)]	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
8回	5	22	金	4～7	[P-4:FD人工歯排列]人工歯排列(下顎臼歯部，上顎臼歯部)	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
9回	5	29	金	4～7	[L-F17:治療13] 咬合調整等，研磨 [L-F18:治療14] 義歯の装着，患者指導，義歯装着後の経過観察等 [P-4:FD人工歯排列]人工歯排列(下顎臼歯部，上顎臼歯部)	原田 村田 吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	講義室6A 臨床実習室4B
10回	6	5	金	4～7	[P-5:歯肉形成，下顎義歯埋没]人工歯排列(上顎臼歯部)，下顎歯肉形成，下部埋没;金属フラスク使用(加熱重合レジン) (特別講義)バイオフィルム研究	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田 二川	臨床実習室4B 講義室6A
11回	6	12	金	4～7	[P-6:上顎義歯埋没，下顎義歯重合]上顎歯肉形成，上顎スプルーイング，上部埋没;ゴムフラスク使用(流し込み重合レジン)，下顎流蝋，分離剤の塗布，下顎加熱重合，徐冷	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
12回	6	26	金	4～7	[P-7:上顎義歯重合，割り出し]上顎流蝋，リリーフ，ポストダム，分離材の塗布，流し込みレジン重合，上下顎義歯割り出し	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
13回	7	3	金	4～7	[P-8:リマウント，咬合調整，研磨]リマウント，選択削合(中心咬合位・偏心位)，自動削合，研磨	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B
14回	7	10	水	4～7	[P-9:咬合調整，研磨]自動削合，研磨 (特別講義) タイトル未定	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田 秋山	臨床実習室4B 講義室6A
15回	7	17	金	4～7	[P-10:作品提出，器具チェック]自動削合，研磨，器具チェック	吉田・原田・鳥巣・岡崎・野黒美・村田	臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	10	2	金	4～7	[P-11:咬合調整, 研磨]自動削合, 研磨, 作品提出	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
17回	10	9	金	4～7	[L-P1:総論1] 部分床義歯, 咀嚼系の構造, 機能運動 [L-P2:総論2] 咬合の不調和, 歯の欠損による継発する症状等 [L-P3:総論3] 部分床義歯の構成要素, 症型分類 [L-P4:総論4] 部分床義歯の構成要素, 症型分類	原田 原田 吉田 吉田	講義室6A
18回	10	16	金	4～7	[L-P5:総論5] 支持, 把持の考え方 [L-P6:総論6] 維持の考え方, サベイング [L-P7:総論7] 材料, 連結子1 [L-P8:総論8] 材料, 連結子2	鳥巣 鳥巣 村田 村田	講義室6A
19回	10	23	金	4～7	[P-12:概形印象 診断用模型調整]診断用模型作製, サベイング(予備測定), ガイドプレーンとレストシートの形成練習, 義歯床・トレーの外形線記入, 人工歯の植え換え	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
20回	10	30	金	4～7	[L-P9:総論9] 支台装置(クラスプ等)1 [L-P10:総論10] 支台装置(クラスプ等)2 [L-P11:治療1] 診察と治療計画, 臨床ステップ [L-P12:治療2] 前処置, 印象採得	村田 村田 原田 原田	講義室6A
21回	11	6	金	4～7	[L-P13:治療3] (サベイイング), 設計の考え方 [L-P14:治療4] 咬合採得, 人工歯の種類, 咬合器装着 [L-P15:治療5] 人工歯排列, ろう義歯, 埋没, 重合, リマウント, 削合, 完成 [L-P16:治療6] 義歯の装着, 患者指導, 経過観察, 義歯管理, 修理	村田 村田 原田 原田	講義室6A
22回	11	13	金	4～7	[P-13:個人トレー, 補綴的前処置]個人トレー製作, 模型咬合位の確認, ガイドプレーン・レストシート形成	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	講義室6A
23回	11	20	金	4～7	[P-14:印象 模型の調整, サベイング]印象採得, 作業模型・ 対合模型調整, サベイング(本測定)	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
24回	11	27	金	4～7	[P-15:ブロックアウト, リリーフ]メタルフレーム(鉤・連結子)の外形線記入, ブロックアウト, リリーフ, 複印象と埋没材注入(耐火模型作製)	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
25回	12	4	金	4～7	[P-16:耐火模型作製]埋没材注入(耐火模型作製), 耐火模型への外形線記入, メタルフレームワックスアップ	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
26回	12	11	金	4～7	[L-P17:治療7] 前処置, 前処置としての咬合調整, 部分床義歯の印象 [L-P18:治療8] フレームワーク, 咬合 [P-17: ワックスアップ]メタルフレームワックスアップ	鳥巣 鳥巣 吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	講義室6A 臨床実習室4B
27回	12	18	金	4～7	[P-18:埋没, 咬合床作製]スプルーイング, 埋没, 咬合床作製	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
28回	1	8	金	4～7	[L-FP1:種々の義歯1] 暫間, 即時, 移行, 診断用, 治療用義歯, 金属床義歯 [L-FP2:種々の義歯2] オーバーデンチャーなど [L-FP3:種々の義歯3] インプラント義歯, 顎義歯 [L-FP4:種々の義歯4] 複製義歯, 訪問	原田 原田 村田 村田	講義室6A
29回	1	15	金	4～7	[P-19:鋳造, 研磨, 咬合採得]鋳造(デモ), 研磨(デモ), 咬合採得, 咬合器付着	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B
30回	1	29	金	4～7	[P-20:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック]人工歯排列, 歯肉形成, 作品提出, 器具チェック	吉田・原田・鳥巣・岡﨑・野黒美・村田	臨床実習室4B

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 火・4～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034326 DNGD33131987 口腔外科学Ⅰ及び同実習/ (Oral and Maxillofacial Surgery I and Practice)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘、井村英人、今城育美、緒方絹子、大森景介、原 昌士、安田光佑、三好太郎、福嶋大将 柳本惣市(広島大学)、山田慎一(富山大学)		

授業の概要

口腔外科では、口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に生じる疾患のうち、う蝕や歯周病、義歯、ブリッジ、歯列不正などの歯科疾患を除くすべての疾患を取り扱う。具体的には智歯周囲炎、顎炎、顎骨周囲の蜂窩織炎などの炎症性疾患、顎の骨折や歯・軟組織の外傷、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、嚢胞性疾患、神経性疾患、耳下腺を除く唾液腺疾患、口腔腫瘍などである。さらに、歯科インプラントに関連する埋入手術や骨増量手術、さまざまな全身疾患を有する患者の抜歯を始めとする侵襲的歯科治療なども口腔外科で行っている。口腔やその周囲に病気が発生すると、審美的な異常だけではなく、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害も生じうるが、治療により口腔・顎・顔面の形態や機能を回復させ、健康的な美しさを取り戻すことができる。その知識、技術を紹介しこれからの歯科医療を先端で担う歯科医師を育成することを目的とする。

授業到達目標

一般目標 GIO:

口腔外科疾患の病因、病態、治療、予想される経過について、基本的な説明ができるようになる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

・全身状態について基本的な診察ができる。	A-3)
・病歴聴取，現症についての診察，必要な臨床検査，インフォームドコンセント，処方箋の書き方についての基本を理解する。	E-1-1), E-1-3)
・抜歯をはじめとする口腔外科小手術を理解する。	E-1-5)
・口腔の先天異常，外傷，炎症，嚢胞，腫瘍，顎関節疾患，唾液腺疾患，神経性疾患，口腔に症状を現す全身疾患について説明できる。	E-2-4), E-5-3)

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基礎的知識、臨床的知識、症例の実際を実践的に講義する。

授業内容

1. 口腔外科総論
2. 手術の基本手技
3. 抜歯と歯槽部の外科
4. 嚢胞性疾患
5. 口腔粘膜疾患
6. 良性腫瘍と腫瘍類似疾患
7. 口腔癌の統括的治療
8. 睡眠歯科
9. 実習(手洗いとガウンテクニック)
10. 実習(抜歯)

キーワード	口腔外科学、口腔がん

教科書・教材・参考書	教科書:口腔外科学(第5版) 医歯薬出版 必ず上達 抜歯手技　堀之内康文　クインテッセンス出版 口腔癌 桐田忠昭/原田浩之　医歯薬出版 口腔癌診療ガイドライン　金原出版
成績評価の方法・基準等	期末定期試験および実習の到達度を鑑み総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	口腔外科は臨床歯科医学の根幹をなし、一番ダイナミックな分野であると考える。 学生諸君にはその一端を示し、将来に役立ててもらいたい。 教科書等で予習をしておくと理解が深まる。 非常勤講師の都合によりシラバス内容が変更になることもあるが、第一回講義の際に最終決定のシラバスを配布する。
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・井村　英人／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・今城　育美／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・緒方　絹子／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・大森　景介／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・原　昌士／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・安田　光佑／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・三好　太郎／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・福嶋　大将／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。

年度 2026　学期 3・4Q	曜日・校時　金・1～3	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034327 DNGD33141987 口腔外科学Ⅱ及び同実習/　(Oral and Maxillofacial Surgery Ⅱ and Practice)		
対象年次　4年次	講義形態　講義・実習形式	教室　講義室 6A、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘、井村英人、今城育美、緒方絹子、大森景介、原　昌士、安田光佑、三好太郎、福嶋大将 三島克章(山口大学)、夏目長門(愛知学院大学)、千足浩久(東大阪医療センター)		

授業の概要

歯科医師として臨床現場において全人的治療を行うための基礎として、顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し診断を導く思考力および判断力を養い、全身疾患をも含めた治療方針を決定する能力を身につける。口腔・顎顔面領域に生じる先天性あるいは後天性疾患に関してその原因、症状、診断包および予後を学習し、これからの疾患の診断と、全身状態を考慮しながら治療方針を策定できる素養、及びこれからの疾患の予防に関する知識を学習する。

授業到達目標

一般目標 GIO：　【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

口腔・顎顔面領域に発症する疾患の特徴と病因および診断・治療を理解する。

個別行動目標 SBOs：

1.全身状態の評価に基づいた口腔・顎顔面領域の診察ができる。口腔・顎顔面領域の疾患を正しく診断し、患者の立場を尊重した治療方針・治療計画を立案できる。	A-3,　F-2-2)
2.診察の基本（病歴聴取、現症の取り方、患者の心理）を説明できる。	
3.小手術に関わる基本（適応症、禁忌、偶発症、器具の用法と基本手技，清潔・不潔の区別）を説明できる。	E-1-1)，E-1-3)，E-1-5)，E-1-6)
4.口腔・顎顔面領域に発症する疾患（先天異常、外傷、炎症、口腔粘膜疾患、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患、唾液腺疾患、神経疾患）の種類を列挙し、症状と治療法を説明できる。	E-2-4),E-5-3)，E-6
5.口腔と医科疾患の関連の関連について説明することができる。	
6.単純な抜歯、軟組織の小手術、基本的な切開、縫合、抜糸を実施できる。	F-1-1) F-3-1),F-3-2) F-3-5)，G-1-2)，G-3

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法（学習指導法）

スライド・ビデオを中心にすすめ、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。

授業内容

1. 口腔外科治療と全身管理
2. 先天異常と後天異常
3. 顎顔面の外傷
4. 血液疾患
5. 炎症性疾患
6. 神経疾患と心因性疾患
7. 顎変形症と顎関節疾患
8. 唾液腺疾患
9. 口腔に症状を呈する全身疾患
10. 実習（切開、縫合）
11. 実習（採血等）

キーワード	口腔外科、診断、治療
教科書・教材・参考書	口腔外科学　宮崎正監修　医歯薬出版 口腔の発生と組織　田畑　純　南山堂 顎変形症の基礎知識　クインテッセンス出版 新編　顎関節症　日本顎関節学会編　永末書店
成績評価の方法・基準等	定期考査(筆記試験)により判断する(100 点満中 60 点以上を合格とする)。 再試験は筆記試験によって合否を判断する。 授業中の小テストは合否の判断材料とはしない。 発表形式も授業を行うが、発表内容を採点し、定期考査に加点する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	教科書等で予習をしておくと理解が深まる。 非常勤講師の都合によりシラバス内容が変更になることもあるが、第一回講義の際に最終決定のシラバスを配布する。
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・井村　英人／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・今城　育美／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・緒方　絹子／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・大森　景介／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・原　昌士／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・安田　光佑／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・三好　太郎／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。 ・福嶋　大将／長崎大学病院にて臨床業務に従事／実際の臨床に基づいた症例の診断および治療について教授する。

日程表（口腔外科学Ⅰ・Ⅱ及び同実習）

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名(I/II)	教室
1回	9	29	火	4～6	口腔外科総論 医療倫理 診断法基本	山田朋弘 I	講義室6A
2回	10	2	金	1～3	手術基本手技 周術期管理・感染予防	井村英人 I	講義室6A
3回	10	6	火	4～6	先天異常	井村英人 II	講義室6A
4回	10	9	金	1～3	嚢胞性疾患 睡眠歯科	安田光佑 I	講義室6A
5回	10	13	火	4～6	特別講義（国際貢献）	夏目長門 （愛知学院大） II	講義室6A
6回	10	16	金	1～3	唾液腺疾患	福嶋大将 II	講義室6A
7回	10	20	火	4～6	口腔に症状を呈する全身疾患	山田朋弘 II	講義室6A
8回	10	23	金	1～3	炎症性疾患	井村英人 II	講義室6A
9回	10	27	火	4～6	特別講義（口唇口蓋裂）	三島克章 （山口大） II	講義室6A
10回	10	30	金	1～3	口腔粘膜疾患	原　昌士 I	講義室6A
11回	11	6	金	1～3	（口腔外科学会総会） 小テスト①	未定	講義室6A
12回	11	13	金	1～3	悪性腫瘍①	大森景介 I	講義室6A
13回	11	17	火	4～6	顎変形症 顎関節疾患	山田朋弘 II	講義室6A
14回	11	20	金	1～3	良性腫瘍と腫瘍類似疾患	今城育美 I	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名(I/II)	教室
15回	11	24	火	4～6	特別講義（口腔癌）	山田慎一 （富山大） I	講義室6A
16回	11	27	金	1～3	悪性腫瘍②	大森景介 I	講義室6A
17回	12	1	火	4～6	特別講義（顎顔面外傷等）	千足浩久 （東大阪医療C） II	講義室6A
18回	12	4	金	1～3	手洗いとガウンテクニック実習	安田光佑 I	講義室6A
19回	12	8	火	4～6	顎顔面の外傷	山田朋弘 II	講義室6A
20回	12	11	金	1～3	切開と縫合 実習	井村英人 II	講義室6A
21回	12	15	火	4～6	特別講義（睡眠歯科）	柳本惣市 （広島大学） I	講義室6A
22回	12	18	金	1～3	全身管理と歯科治療 臨床検査	原　昌士 II	講義室6A
23回	12	22	火	4～6	神経疾患と心因性疾患	今城育美 II	講義室6A
24回	1	5	火	4～6	歯・歯槽および周囲組織の外科	緒方絹子 I	臨床実習室4B
25回	1	8	金	1～3	抜歯実習	緒方絹子 I	臨床実習室4B
26回	1	15	金	1～3	採血・静脈路確保 実習	福嶋大将 II	臨床実習室4B
27回	1	26	火	4～6	予備日		

年度 2026 学期 3･4Q	曜日･校時 木･1～3	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25034319 DNGD33151983 歯科放射線学及び同実習/ (Head and Neck Radiology)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義･実習形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角美佐/misa@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔診断･情報科学分野医局/095-819-7709(内 7709)/9:00～17:00 まで随時			
担当教員(オムニバス科目等)	角 美佐、片山 郁夫、高木 幸則、榮田 智、佐々木 美穂、江川 亜希子		

授業の概要
適切な歯科医療を提供するための歯科放射線学に関する知識を身につける。

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】
一般目標 GIO:
適切な歯科医療を提供するための歯科放射線学に関する知識を身につける。
個別行動目標 SBOs:

1. 放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる	E-1-2)①
2. 放射線の人体への影響の特徴を説明できる	E-1-2)②
3. 放射線防護の基準と方法を説明できる	E-1-2)③
4. X 線画像の形成原理を説明できる。	E-1-2)④
5. X 線装置の原理を説明できる。	E-1-2)⑤
6. 口内法 X 線撮影の種類と適応およびパノラマ X 線撮影の適応を説明できる。	E-1-2)⑥
7. 口内法 X 線画像とパノラマ X 線画像の読影ができる。	E-1-2)⑦
8. 頭部 X 線撮影の種類及び適応を説明できる。	E-1-2)⑧
9. 造影検査法、超音波検査法、CT、歯科用コンビーム CT, MRI, および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	E-1-2)⑨
10. 口腔乾燥の原因、診察、検査、診断および治療方針を説明できる。	E-2-4)-(11)⑤
11. 口内法デンタル X 線検査の必要性を患者に説明できる。	F-2-2)⑤
12. 振動と波動現象の特徴及び光と音の基本的性質を説明できる。	C-1-2)②
13. 医療機器に応用される電磁現象を説明できる。	C-1-2)③
14. 口腔･顎顔面領域の疾患の特徴と病因及び診断･治療の基本的概念を理解する	E-2-4)-(1)～(11)

対応するディプロマポリシー
DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
主にスライドを用いた講義を行い、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。教材は当日配布するか、事前に LACS にアップロードする場合もある。LACS の教材は事前にダウンロードしておくこと。

授業内容
1 回目 オリエンテーション、放射線物理学(1)
2 回目 放射線物理学(2)
3 回目 放射線生物学, 放射線防護
4 回目 X 線撮影法
5 回目 CT, 歯科用コーンビーム CT の原理と特徴
6 回目 MRI の原理と特徴(1)
7 回目 MRI の原理と特徴(2)
8 回目 MR, CT 画像解剖 / MRI 診断
9 回目 顎骨の画像診断(1)
10 回目 顎骨の画像診断(2) / 顎関節の画像診断
11 回目 超音波検査法の原理と特徴 / 自己免疫疾患
12 回目 唾液腺の画像診断 / リンパ節の画像診断
13 回目 核医学検査法の原理と特徴
14 回目 放射線治療
15 回目 胸部 X 線画像 / 全身疾患

キーワード	放射線、X 線、CT、MRI、超音波、核医学、PET/CT、放射線治療
教科書・教材・参考書	歯科放射線学　第 7 版 （医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	出席、小テスト、授業への取り組み、定期試験により成績を評価する。合計点が 60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	出席が 3/4 に達しない場合、成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	教材として配付された資料がある場合は確実に予習・復習して授業に臨むこと。
実務経験のある教員による授業科目	・角　美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・片山　郁夫／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・高木　幸則／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・榮田　智／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・佐々木　美穂／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義と実習指導を行う ・江川　亜希子／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義を行う

日程表(歯科放射線学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	木	1～3	オリエンテーション / 放射線物理学(1)	角/片山	講義室6A
2回	10	8	木	1～3	放射線物理学(2)	片山	講義室6A
3回	10	15	木	1～3	放射線生物学, 放射線防護	片山	講義室6A
4回	10	22	木	1～3	X線撮影法	片山	講義室6A
5回	10	29	木	1～3	CT, 歯科用コーンビームCTの原理と特徴	角	講義室6A
6回	11	5	木	1～3	MRIの原理と特徴(1)	角	講義室6A
7回	11	12	木	1～3	MRIの原理と特徴(2)	角	講義室6B
8回	11	19	木	1～3	MR, CT画像解剖 / MRI診断	角	講義室6A
9回	11	26	木	1～3	顎骨の画像診断(1)	榮田	講義室6A
10回	12	3	木	1～3	顎骨の画像診断(2) /顎関節の画像診断	榮田/角	講義室6A
11回	12	10	木	1～3	超音波検査法の原理と特徴 / 自己免疫疾患	高木	講義室6A
12回	12	17	木	1～3	唾液腺の画像診断 / リンパ節の画像診断	角	講義室6A
13回	1	7	木	1～3	核医学検査法の原理と特徴	佐々木	講義室6A
14回	1	14	木	1～3	放射線治療	江川	講義室6A
15回	1	28	木	1～3	胸部X線画像 / 全身疾患	角	講義室6A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時　金・1～3	必修選択 必修	単位数 1.5
授業コード 授業科目/(英語名)	25034320 歯科麻酔学及び同実習 (Dental Anesthesiology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 讃岐拓郎/sanukit@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔分野研究室/819−7713/火曜日 12:00-13:00, 17:00-18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	讃岐拓郎、倉田眞治、達　聖月、尾崎　由、月本翔太、非常勤講師;境徹也(佐世保共済病院麻酔科ペインクリニック), 山下和範(高度救命救急センター)、関野元裕(集中治療部)、鮎瀬卓郎(臨床研究センター)		

授業の概要

安心・安全・快適な歯科治療を全ての患者に提供するために、3年次までに習得した基礎医学を整理して理解し、他職種で共有できる医学知識を体系的に応用しようとする態度および問題解決志向に対する理解を深める。
正確に全身状態を観察・評価するための、知識、態度、技術を身につける。歯科治療に欠かせない局所麻酔について十分な知識をもち、歯科治療時の全身的偶発症の対処法、予防法を身につける。

一般目標 GIO:
安心・安全・快適な歯科治療を全ての患者に提供するための、
基礎医学の重要性を理解し、他職種で共有できる共通言語を
体系的に応用できる能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 身体を構成する組織と器官を説明できる。呼吸・循環生理と病因と呼吸障害と循環障害の病態を説明できる。	C-3-4)-(4) 、 C-5-4)
2. 全身評価に必要な臨床検査法を説明できる。	E-1-1) 、 E-1-3) 、 E-1-4)-(1)～(4)
3. 全身評価を行うための診察の基本を説明できる。	E-1-6)
4. 歯科医療に必要な麻酔管理法を説明できる。	E-2-1)
5. 救急蘇生法について説明できる。	E-2-4)
6. 疼痛の発生機序および鎮痛法について説明できる。	E-5-1)～3)
7. 局所麻酔の方法について説明できる。	E-5-3)
8. 高齢者・障害者の歯科治療について説明できる。	F-2-2)
9. 精神・心身医学的疾患患者の歯科治療について説明できる。	F-3-1) 、 F-3-7)

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)
概要
全身麻酔、局所麻酔、鎮静法、心肺蘇生法、疼痛治療を通して安全で痛くない歯科治療の原則と救急時の対処法を学ぶ。
授業内容
1 回目 歯科麻酔学概論
2 回目 呼吸・循環の生理
3 回目 代謝・神経の生理
4 回目 疼痛の発生機序と鎮痛方法について
5 回目 麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法について
6 回目 麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用について
7 回目 麻酔管理に用いる装置・器具について
8 回目 局所麻酔薬および局所麻酔法について
9 回目 高度な全身管理:ICU・救急部での呼吸・循環管理について
10 回目 周術期管理の実際について
11 回目 歯科における鎮静(吸入鎮静法と静脈内鎮静法)について
12 回目 高度な全身管理:様々な合併疾患と周術期管理のポイント
13 回目 高度な呼吸管理について
14 回目 歯科治療中に起こる合併症について
15 回目 歯科治療時の心肺蘇生法について
16 回目 予備日

キーワード	全身管理 局所麻酔 全身偶発症の予防

教科書・教材・参考書	歯科麻酔学 （第7版 医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験により主たる評価を行う。そのほか、レポートや出席率を加味して総合的に評価を行う。成績評価を合計して 100 点とし、60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験条件として、出席率70％以上の出席が必要となる。
備考(事前・事後学習の内容、家庭学習方法について)	事前・事後学習の内容：生理学、薬理学の復習をしておくこと。必ず翌週の講義内容について予習をすること．講義では、質疑応答を通して、講義を進めていく．毎回の予習復習課題として動画視聴・文献資料などを読んだ後に LACS 掲示板でのコメントを求めます。
実務経験のある教員による授業科目	・讃岐 拓郎／大学病院における診療経験（全身管理・麻酔管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・倉田 眞治／大学病院における診療経験（全身管理・麻酔管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・山下 和範／大学病院における診療経験（全身管理・救急医療）／大学病院における診療経験を元に全身管理・救急医療に関する講義を行う。 ・境 徹也／大学病院や市中病院における診療経験（ペインクリニックなどの疼痛治療）／大学病院・市中病院における診療経験を元にペインクリニックなどの疼痛治療に関する講義を行う。 ・関野 元裕／大学病院における診療経験（全身管理・集中治療管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・集中治療管理に関する講義を行う。 ・達 聖月／大学病院における診療経験（ペインクリニックなどの疼痛治療）／大学病院における診療経験を元にペインクリニックなどの疼痛治療に関する講義を行う。 ・尾崎 由／大学病院における診療経験（全身管理・麻酔管理）／大学病院における診療経験を元に全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・月本翔太／大学病院をはじめとする診療経験（全身管理・麻酔管理）／診療経験に基づく全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。 ・鮎瀬卓郎／大学病院をはじめとする診療経験（全身管理・麻酔管理）／診療経験に基づく全身管理・麻酔管理に関する講義を行う。

日程表（歯科麻酔学及び同実習）

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	金	1～3	歯科麻酔学概論（歯科麻酔学の歴史、学ぶ意義） 歯科麻酔学のが歴史を通して歯科医学の中の位置づけを考える （教材）歯科麻酔学、プリント	讃岐拓郎	講義室6A
2回	4	10	金	1～3	呼吸,循環の生理について 麻酔管理、全身評価に必要な呼吸と循環の臨床生理学を学ぶ （教材）歯科麻酔学、DVDなどを用いた呼吸音、心音の体感	讃岐拓郎	講義室6A
3回	4	17	金	1～3	代謝・神経の生理について 麻酔管理、全身評価に必要な代謝・神経の臨床生理学を学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
4回	4	24	金	1～3	疼痛の発生機序と鎮痛方法について 歯科における急性痛および難治性疼痛の発症機序と治療法を学ぶ （教材）歯科麻酔学	境　徹也(1) 達　聖月(2,3)	講義室6A
5回	5	1	金	1～3	麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法について バイタルサインの評価およびモニタリング機器について学ぶ （教材）歯科麻酔学、実際の生体モニターの取り扱いについて学ぶ	讃岐拓郎	講義室6A
6回	5	8	金	1～3	麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用について 全身麻酔、静脈麻酔等に使用する麻酔薬の薬理作用を学ぶ （教材）歯科麻酔学	倉田眞治	講義室6A
7回	5	15	金	1～3	麻酔管理に用いる装置・器具について 全身麻酔および静脈麻酔に用いる装置・器具等について学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	月本翔太	講義室6A
8回	5	22	金	1～3	局所麻酔薬および局所麻酔法について 局所麻酔の作用機序、麻酔薬の薬理作用と解剖、血管収縮薬について学ぶ （教材）歯科麻酔学、注射器などを用いて実際の局所麻酔法を学ぶ	讃岐拓郎	講義室6A
9回	5	29	金	1～3	高度な全身管理：ICU・救急部での呼吸・循環管理について 歯科治療と領域を共有する歯科麻酔管理の特殊性を学ぶ（口腔咽頭部の解剖を学ぶ） （教材）歯科麻酔学	関野元裕(1) 山下和範(2) 月本翔太(3)	講義室6A
10回	6	5	金	1～3	周術期管理の実際について 創傷治癒まで考慮した全身管理方法について学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	倉田眞治	講義室6A
11回	6	12	金	1～3	歯科における鎮静（吸入鎮静法と静脈内鎮静法）について 鎮静法に用いる装置、薬剤、それぞれの鎮静法の利点、欠点 （教材）歯科麻酔学、プリント	讃岐拓郎	講義室6A
12回	6	19	金	1～3	高度な全身管理：様々な合併疾患と周術期管理のポイント 小児・障害者・高齢者・全身疾患を有する患者の周術期管理などについて学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	尾崎　由	講義室6A
13回	6	26	金	1～3	高度な呼吸管理について 麻酔中の上気道開通性について～基礎から臨床まで～ （教材）歯科麻酔学、プリント	月本翔太(1・2) 倉田眞治(3)	講義室6A
14回	7	3	金	1～3	歯科治療中に起こる合併症について 歯科治療中に起こりうる全身的、局所的合併症について学ぶ （教材）歯科麻酔学、プリント	讃岐拓郎	講義室6A
15回	7	10	金	1～3	歯科治療時の心肺蘇生（歯科医師に必要な基本的救急蘇生：BLS）について 歯科治療時に起こる全身的偶発症とその対処法を学ぶ （教材）歯科麻酔学、DVD、マネキンを用いての実習	讃岐拓郎	講義室6A
	7	17	金		予備日		
	7	24	金		歯科麻酔学　定期試験	讃岐拓郎	

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 水 1～2	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034330 DNGD33501990 高齢者歯科学/(Geriatric Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 原田佳枝/ hkae@nagasaki-u.ac.jp /歯科補綴学分野研究室/095-819-7692(内 7692)/月曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	木下裕久(精神神経科学)、会田薫子(学外非常勤講師)、玉田泰嗣(学外非常勤講師)、村田比呂司、原田佳枝、住田吉慶、入江浩一郎、今給黎明、久松徳子、歯科医師会(学外非常勤講師)、鳥巣哲朗、吉田和弘、岡﨑ひとみ 実習:原田佳枝、鳥巣哲朗、吉田和弘、岡崎ひとみ、野黒美麻由子		

授業の概要

高齢者歯科学は、歯科医療を通して高齢者の健康増進を図ることを目的とした臨床科目である。老化という誰も避けて通れない生理的な生命現象を理解した上で、高齢者に対する歯科的取り組みを学習する。超高齢社会となったわが国において、高齢者歯科への需要はますます増加することが予想される。高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を身に付ける。

個別行動目標 SBOs:	【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1.老化の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。	E-5-1)-①⑪
2.老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。	E-5-1)-③④
3.高齢者に多く見られる疾患を説明できる。	E-5-1)-②
4.高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。	E-5-1)-⑤
5.高齢者に対して基本的な歯科治療を説明できる。	E-5-1)-⑥
6.要介護者の歯科治療を説明できる。	E-5-1)-⑥⑦⑩
7.摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	E-5-1)-⑧⑨⑩

対応するディプロマポリシー

DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

専門の異なる学内外の教員、非常勤講師によって講義は教科書の内容を中心に, パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い, 必要に応じてプリントを配布する。実習ではステップごとにその概説があり, 主要な項目は教員がデモ示説する。非常勤講師による特別講義も計画している。

授業内容

1,2 回目 高齢者歯科学総論
3,4 回目 高齢者のための社会保障制度
5,6 回目 加齢の科学、全身および口腔における加齢変化、医学的背景、高齢者に多い全身疾患①
7,8 回目 有病高齢者患者の歯科治療の注意点① 高齢者の一般歯科診療に対する考慮点
9 回目 臨床死生学 特論
10 回目 高齢者の終末期、高齢者に多い口腔疾患①(歯・歯周病、欠損への対応)
11 回目 高齢者に多い口腔疾患②(軟組織、硬組織、神経疾患)
12 回目 医学的背景、高齢者に多い全身疾患②
13,14 回目 認知症を理解する 認知症を理解し対応の基本を学ぶ
15,16 回目 有病高齢者患者の歯科治療の注意点② 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点
17,18 回目 口腔機能管理・口腔衛生管理 高齢者の口腔機能評価・口腔ケア
19,20 回目 補綴(有床義歯)診療
21,22 回目 摂食嚥下障害
23 回目 それぞれのステージにおける歯科の役割
24 回目 訪問歯科診療の実際
25 回目 診療環境、高齢者と栄養
26 回目 訪問診療、在宅歯科診療 病診連携システム 地域包括ケア
27,28 回目 在宅歯科医療・病診連携システム、口腔ケア・口腔機能維持
29,30 回目 実習① 口腔機能評価・認知機能
31,32 回目 実習② 高齢者疑似体験・介護基本・嚥下手技

キーワード	高齢者、加齢、摂食・嚥下
教科書・教材・参考書	教科書:老年歯科医学(医歯薬出版) 参考書:よくわかる高齢者歯科学(永末書店)
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	質問は遠慮なく各担当教員にすること。なお、講義の内容や順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。

実務経験のある教員による授業科目	・村田比呂司／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・木下裕久／大学病院および関連病院における精神神経医学を主体とした高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・原田佳枝／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・鳥巣哲朗／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・吉田和弘／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・岡崎ひとみ／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科補綴治療および技工作業／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・野黒美麻由子／大学病院および関連病院における有床義歯を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・住田吉慶／大学病院および関連施設等における口腔外科を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・久松徳子／大学病院および関連施設等における摂食・嚥下を主体とした歯科治療および訪問歯科診療／高齢者を対象とした臨床および訪問診療の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・入江浩一郎／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・今給黎明／大学病院および関連病院における予防歯科、周術期口腔管理を主体とした歯科治療／高齢者を対象とした臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表(高齢者歯科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	水	1	高齢者歯科学総論 高齢者歯科医療と社会的背景	原田佳枝	講義室6A
2回	9	30	水	2	高齢者歯科学総論 高齢者歯科学を学ぶ視点	原田佳枝	講義室6A
3回	10	7	水	1	高齢者のための社会保障制度 高齢者福祉施策、介護保険	今給黎 明	講義室6A
4回	10	7	水	2	高齢者のための社会保障制度 高齢者福祉施策、介護保険	今給黎 明	講義室6A
5回	10	14	水	1	加齢の科学 全身および口腔における加齢変化	岡崎 ひとみ	講義室6A
6回	10	14	水	2	医学的背景 高齢者に多い全身疾患①	原田佳枝	講義室6A
7回	10	21	水	1	有病高齢者患者の歯科治療の注意点① 全身的疾患との関連、高齢者の一般歯科診療に対する考慮点	吉田和弘	講義室6A
8回	10	21	水	2	有病高齢者患者の歯科治療の注意点① 全身的疾患との関連、高齢者の一般歯科診療に対する考慮点	吉田和弘	講義室6A
9回	10	28	水	1	臨床死生学 特論	会田薫子 (非常勤)	講義室6A
10回	10	28	水	2	高齢者の終末期 高齢者に多い口腔疾患①(歯・歯周病、欠損への対応)	鳥巣哲朗	講義室6A
11回	11	4	水	1	高齢者に多い口腔疾患②(軟組織、硬組織、神経疾患)	原田佳枝	講義室6A
12回	11	4	水	2	医学的背景 高齢者に多い全身疾患②	原田佳枝	講義室6A
13回	11	11	水	1	認知症を理解する① 認知症を理解し対応の基本を学ぶ①	木下裕久	講義室6A
14回	11	11	水	2	認知症を理解する② 認知症を理解し対応の基本を学ぶ②	木下裕久	講義室6A
15回	11	18	水	1	有病高齢者患者の歯科治療の注意点② 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点	住田吉慶	講義室6A
16回	11	18	水	2	有病高齢者患者の歯科治療の注意点② 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点	住田吉慶	講義室6A
17回	11	25	水	1	口腔機能管理・口腔衛生管理 高齢者の口腔機能評価・口腔ケア	岡崎 ひとみ	講義室6A
18回	11	25	水	2	口腔機能管理・口腔衛生管理 高齢者の口腔機能評価・口腔ケア	岡崎 ひとみ	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
19回	12	2	水	1	補綴(有床義歯)診療 高齢者の有床義歯補綴の概要と実際、必要な口腔機能の評価	村田 比呂司	講義室6A
20回	12	2	水	2	補綴(有床義歯)診療 高齢者の有床義歯補綴の概要と実際、必要な口腔機能の評価	村田 比呂司	講義室6A
21回	12	9	水	1	摂食嚥下障害	久松徳子	講義室6A
22回	12	9	水	2	摂食嚥下障害	久松徳子	講義室6A
23回	12	16	水	1	それぞれのステージにおける歯科の役割	鳥巣哲朗	講義室6A
24回	12	16	水	2	訪問歯科診療の実際	歯科 医師会 西野啓至	講義室6A
25回	1	6	水	1	診療環境(診療所、入院下、在宅、施設) 高齢者と栄養	玉田泰嗣	講義室6A
26回	1	6	水	2	訪問診療 在宅歯科医療・病診連携システム・地域包括ケア	玉田泰嗣	講義室6A
27回	1	13	水	1	在宅歯科医療・病診連携システム 口腔ケア・口腔機能維持	入江 浩一郎	講義室6A
28回	1	13	水	2	在宅歯科医療・病診連携システム 口腔ケア・口腔機能維持	入江 浩一郎	講義室6A
29回	1	20	水	1	実習①認知機能・口腔機能評価	2補綴 講座員	講義室6A PBL室
30回	1	20	水	2	実習①認知機能・口腔機能評価	2補綴 講座員	講義室6A PBL室
31回	1	27	水	1	実習②高齢者疑似体験・介護基本・嚥下手技	2補綴 講座員	講義室6A 臨床実習室4A スキルスラボ
32回	1	27	水	2	実習②高齢者疑似体験・介護基本・嚥下手技	2補綴 講座員	講義室6A 臨床実習室4A スキルスラボ

年度 2026　学期 1・2Q	曜日・校時　木 1～2	必修選択 必須	単位数 1
授業コード 科目ナンバリング・コード 授業科目/(英語名)	25034331 DNGD 33511990 障害者歯科学 (Special Care Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義	教室 講義室6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 讃岐拓郎/sanuki-t@nagasaki-u.ac.jp /特歯部教員室/TEL:095-819-7717 火曜日 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	讃岐拓郎、鮎瀬てるみ、切石健輔、山口香織		

授業の概要及び位置づけ

障害者を含めてスペシャルニーズのある人に対する支援を、歯科診療という視点から理解を深める。併せて、他職種と連携してQOL を守るという歯科医師の役割について考察する。

一般目標 GIO:
障害者の特徴、口腔疾患および口腔機能に対する歯科からの健康支援について理解し、口の健康を通じて QOL を守るという歯科医師の役割を果たすための能力を身につける。

個別行動目標 SBOs:
1. 地域医療における歯科医療の連携を説明できる。
2. 保健・医療・福祉・介護の制度について説明できる。
3. 障害者の口腔・顎顔面領域の疾患について説明できる。
4. 高齢者・障害者の歯科治療の要点を説明できる。
5. 精神・心身医学的疾患患者の歯科治療の要点を説明できる。
6. 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査について説明できる。
7. 歯科治療に必要な行動調整を列挙できる。
8. 医療安全・感染対策について説明できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-7-1) 地域医療への貢献
B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度
E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患
E-5-1) 高齢者の歯科治療
E-5-2) 障害者の歯科治療
E-5-3) 精神・心身医学的疾患
F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査
F-3-7) 高齢者・障害者等患者への治療
G-1-2) 医療安全・感染対策

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 1～2回目は障害者歯科の基本的な概念を学習する。3～9回目は各論として様々な障害について学習する。 10～14回目は実際の障害者歯科診療について学習する。15回目に小テストを実施する。 授業の進行を考慮し、内容が前後の回に移行することがある。 授業内容 1回目　序論 2回目　スペシャルニーズと社会保障 3回目　精神発達・心理的発達と行動の障害、神経・運動障害、感覚障害、音声言語障害 4回目　〃 5回目　〃 6回目　〃 7回目　精神および行動の障害 8回目　歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅱ・Ⅲ 9回目　歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅰ 10回目　リスク評価と安全管理 11回目　行動調整 12回目　〃 13回目　スペシャルニーズのある人の健康支援 14回目　スペシャルニーズのある人の歯科治療 15回目　小テスト

キーワード	スペシャルニーズ、障害、行動調整、安全管理
教科書・教材・参考書	教科書: スペシャルニーズデンティストリー　障害者歯科 第2版 （日本障害者歯科学会　編　　医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	定期試験により主たる評価を行う。試験問題は国家試験の過去問あるいは教科書より出題し、解答については、現在は教科書と異なる事柄があっても教科書の内容を正解とする。 そのほか、最終日の小テスト、授業態度（オンライン授業の場合はレポート）、出席率を加味して総合的に評価を行う。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験条件として、出席率70％以上の出席が必要となる。
備考(学生へのメッセージ)	教科書中心に授業を進めるため、教科書を必携すること。歯学となじみのない用語が多く、予習するほうが、理解が容易である。基本的に講義形式とする。ただし、双方向コミュニケーションを促すため質問は随時受け、学生の要望によりテーマ内容を掘り下げることがある。実地研修は臨床特別実習時において行う。
実務経験のある教員による授業科目	・鮎瀬　てるみ／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。 ・切石　健輔／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。 ・山口　香織／大学病院における診療経験（障害者・高齢者・有病者管理）／大学病院における診療経験を元に障害者・高齢者・有病者管理に関する講義を行う。

日程表(障害者歯科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	23	木	1	総説(序論) 歯科医療におけるスペシャルニーズ、QOLとノーマライゼーション、 社会的および心理的問題、障害者歯科医療の理念と倫理	鮎瀬	講義室6A
2回	4	23	木	2	総説(スペシャルニーズと社会保障) 障害者の医療，福祉の仕組み、地域における障害者歯科、 チーム医療の役割および関連職種、地域の現状および福祉の連携	鮎瀬	講義室6A
3回	4	30	木	1	スペシャルニーズ各論 精神発達・心理的発達と行動の障害 知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症　など	山口	講義室6A
4回	4	30	木	2	神経・運動障害 脳性麻痺、関節リウマチ、Parkinson病、脳血管障害、てんかん　など	山口	講義室6A
5回	5	7	木	1	感覚障害、音声言語障害 視覚障害、聴覚障害など	山口	講義室6A
6回	5	7	木	2		山口	講義室6A
7回	5	14	木	1	スペシャルニーズ各論 精神および行動の障害 統合失調症、うつ病、不安症、心身症、認知症など	鮎瀬	講義室6A
8回	5	14	木	2	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅱ、Ⅲ 症候群、難病	鮎瀬	講義室6A
9回	5	21	木	1	スペシャルニーズ各論 歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群Ⅰ 先天性心疾患、感染性心内膜炎、抗血栓療法	鮎瀬	講義室6A
10回	5	21	木	2	スペシャルニーズのある人の歯科医療 リスク評価と安全管理	鮎瀬	講義室6A
11回	5	28	木	1	スペシャルニーズのある人の歯科医療 行動調整 コミュニケーション法、行動療法、薬物的行動調整、体動の調整法など	切石	講義室6A
12回	5	28	木	2		切石	講義室6A
13回	6	4	木	1	スペシャルニーズのある人の歯科医療 スペシャルニーズのある人の健康支援 スペシャルニーズのある人の歯科治療	切石	講義室6A
14回	6	4	木	2		切石	講義室6A
15回	6	11	木	1	小テスト	讃岐	講義室6A

年度 2026 学期 1Q	曜日・校時 水 1～2	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034333 DNGD33531992 災害口腔医学/(Disaster Oral Medicine)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 川下由美子(口腔保健学), 山下和範(非常勤講師・災害医療支援室), 山添淳一(非常勤講師・九州大学), 若杉和美(非常勤講師・災害医療支援室), 白石千秋(口腔管理センター・災害医療支援室), 中久木康一(非常勤講師・東北大学), 吉田浩二(非常勤講師・原子力災害対策戦略本部), 太田秀人(非常勤講師・福岡県歯科医師会)		

授業の概要

大規模災害・事故が多発している現在，歯科医師として災害現場での特殊な対応・行動を認識し，さらには災害時のチーム医療としての実働や，歯科医師もしくは人として行うことの出来る後方支援を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

災害時に歯科医師として適切に行動するために必要な知識、技能及び態度を修得する。

個別行動目標 SBOs:

1. 災害時の医療システムを説明する。
2. 災害対策の目標を説明する。
3. 被災者の気持ちに寄り添える。
4. 災害時の地域保健医療体制と連携した歯科の役割を説明する。
5. 災害時と平常時の歯科治療ニーズの違いを説明する。
6. 災害時の口腔ケアの特徴と方法について説明する。
7. 災害時を想定したシミュレーションに参加する。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

A-4-2) 患者と歯科医師の関係
A-5-1) 患者中心のチーム医療
A-7-1) 地域医療への貢献
B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度

対応するディプロマポリシー

DP8 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
DP10 離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

輪講形式。スライドおよび配付資料を用いた講義を行う。実習はグループ学習および発表討論を行う。

授業内容

第 1 回 災害医療(概説)
第 2 回 東日本大震災における長崎大学病院の役割
第 3 回 長崎大学の災害医療への取り組み 1
第 4 回 長崎大学の災害医療への取り組み 2
第 5 回 災害拠点病院の歯科の役割 1
第 6 回 災害拠点病院の歯科の役割 2
第 7 回 災害時の薬剤師の役割
第 8 回 急性期病院における歯科の災害医療への関わり
第 9 回 災害時の法律
第 10 回 災害時の支援論
第 11 回 災害時のボランティア論
第 12 回 (未定)
第 13 回 原子力災害医療
第 14 回 災害時におけるチーム医療 1
第 15 回 災害時におけるチーム医療 2
第 16 回 実習 DIG(Disaster Imagination Game) 災害図上訓練

キーワード	災害対策基本法・医療救護班・災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team＜DMAT＞)・災害拠点病院・トリアージ・災害医療コーディネーター

教科書・教材・参考書	災害歯科医学(槻木恵一・中久木康一　編　医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	講義への出席、講義内に行われる小テスト、実習への参加態度を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合，成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	歯科保健医療体制における歯科医師の役割の理解，災害関連死のなかで大きな割合を占める肺炎を早期から予防するための歯科医師・歯科衛生士の専門性の確立，平時からの歯科医師会さらには多職種連携強化を推進することの重要性を学んで欲しい。
実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝／大学病院における診療行為／自らの診療経験を元に，災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・川下由美子／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（予防歯科）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・山下和範／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・山添淳一／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（高齢者歯科・全身管理歯科）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・若杉和美／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・白石千秋／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・中久木康一／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（救急災害医学）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・吉田浩二／大学病院における診療行為／大学病院における診療行為（災害医療支援室）を元に災害医療の実際について講義形式の授業を行っている ・太田秀人／診療所における診療行為／自らの診療経験を元に，災害医療の実際について講義・演習形式の授業を行っている

日程表(災害口腔医学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	火	7	災害医療(概説)	角　忠輝	講義室6A
2回	4	8	水	2	東日本大震災における長崎大学病院の役割	川下由美子	講義室6A
3回	4	15	水	1	長崎大学の災害医療への取り組み 1	山下和範	講義室6A
4回	4	15	水	2	長崎大学の災害医療への取り組み 2	山下和範	講義室6A
5回	4	22	水	1	災害拠点病院の歯科の役割 1	山添淳一	講義室6A
6回	4	22	水	2	災害拠点病院の歯科の役割 2	山添淳一	講義室6A
7回	5	13	水	1	災害時の薬剤師の役割	若杉和美	講義室6A
8回	5	13	水	2	急性期病院における歯科の災害医療への関わり	白石千秋	講義室6A
9回	5	20	水	1	災害時の法律	中久木康一	講義室6A
10回	5	20	水	2	災害時の支援論	中久木康一	講義室6A
11回	5	20	水	3	災害時のボランティア論	中久木康一	講義室6A
12回	5	27	水	1	未定(4/27までに確定します)	未定	講義室6A
13回	5	27	水	2	原子力災害医療	吉田浩二	講義室6A
14回	6	3	水	1	災害時におけるチーム医療 1	太田秀人	講義室6A
15回	6	3	水	2	災害時におけるチーム医療 2	太田秀人	講義室6A
16回	6	3	水	3	実習　DIG(Disaster Imagination Game)　災害図上訓練	太田秀人	講義室6A

統合科目（4 年次生、5 年次生）

（1）臨床解剖学　(4 年)・・・・・・・・・・・・234
（2）スポーツ歯学　(4 年)・・・・・・・・・・・・237
（3）総合歯科学Ⅰ　(4 年)・・・・・・・・・・・・239
（4）総合歯科学Ⅱ　(5 年)・・・・・・・・・・・・241
（5）臨床歯科器材・薬剤学　(5 年)・・・・・・・・・・・・243
（6）臨床薬理学　(5 年)・・・・・・・・・・・・246
（7）デジタルデンティストリー　(5 年)・・・・・・・・・・・・248
（8）齲蝕・歯周病学　(5 年)・・・・・・・・・・・・250
（9）接着歯学　(5 年)・・・・・・・・・・・・253
(10) 顎口腔機能・解析学　(5 年)・・・・・・・・・・・・256
(11) 成育歯学　(5 年)・・・・・・・・・・・・259
(12) 口腔腫瘍学　(5 年)・・・・・・・・・・・・262
(13) 唾液腺疾患と障害　(5 年)・・・・・・・・・・・・265
(14) 周術期口腔機能管理学　(5 年)・・・・・・・・・・・・268
(15) 生活習慣病と口腔　(5 年)・・・・・・・・・・・・271
(16) 睡眠障害と疾患　(5 年)・・・・・・・・・・・・273
(17) 離島歯科医学　(5 年)・・・・・・・・・・・・276
(18) 医療面接　(5 年)・・・・・・・・・・・・279
(19) 医療倫理・プロフェッショナリズム論　(5 年)・・・・・・・・・・・・282
(19) 急性期医療　(5 年)・・・・・・・・・・・・285
(21) 在宅介護医療　(5 年)・・・・・・・・・・・・287
(22) 統合医療学　(5 年)・・・・・・・・・・・・289

年度 2026　学期 3・4Q	曜日・校時　火 1～3	必修選択　必修	単位数　(19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054601 DNGD33241901 臨床解剖学/(Applied Anatomy)		
対象年次　4 年次	講義形態　講義・実習形式	教室　歯学部解剖実習室・医学部解剖実習室・講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類　統合科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	井村英人 h-imura@、森田幸子 moriyu@、山田朋弘 t-yamada@、鳥巣哲朗 torisu@、 久松徳子 norinori@、角美佐 misa@、倉田眞治 kura@、小山田常一 oyamada@

授業の概要及び位置づけ
臨床に必要な局所解剖学的知識について、御遺体を用いて形態・構造および機能を理解し、臨床手技を解剖学的に理論化して把握することにより、臨床の現場における種々の問題に適切に対応できる能力を育成することを目的とする。

授業到達目標

一般目標 GIO:
臨床手技を解剖学的に理論化して把握するため、各系統解剖学の知識を統合することによって、臨床に必要な局所解剖学的知識を3次元的に理解する。

個別行動目標 SBOs:	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(1) 頭蓋骨の観察及び計測ができる。	C-3-4)-(2)-①, E-2-1)-②・③・⑤・⑥, E-2-2)-①・④
(2) 神経ブロックの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(3)-③, C-3-4)-(5)-①～④, C-3-4)-(6)-①・③, E-2-1)-②～⑤, E-2-2)-⑨
(3) 気道確保、気管内挿管、および心臓マッサージの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(4)-②, C-3-4)-(8)-①, E-2-1)-①・④, E-2-2)-①～③・⑦
(4) 頸部郭清、唾液腺切除、顎切除の手技について解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(2)-①, C-3-4)-(3)-③, C-3-4)-(4)-②, C-3-4)-(5)-①～④, C-3-4)-(6)-①・③, C-3-4)-(7)-①
(5) 顎関節疾患について、解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-②・③・⑥
(6) 摂食・嚥下障害について、解剖学的知識をもとに説明できる。	C-3-4)-(3)-③, C-3-4)-(7)-①, E-2-1)-①・③～⑤・⑪・⑫, E-2-2)-①～③・⑧

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医学を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)
オムニバス方式で講義、実習を行う。実習は学生6～7人に御遺体1体を用いる。またパソコンや iOS アプリ等を用いた実習も同様に行う。教室作成の冊子を配付する。適宜、プリント、スライド等を使用する。遺体実習の際は、帽子、マスク、白衣、手袋、専用の上履きを必要とする。

授業内容
1-3 回目　臨床解剖学の目的と意義ならびにスケジュール紹介
4 回目　全身管理:循環器の確保、気道確保の講義
5 回目　唾液腺等の切除:唾液腺の切除の適応と方法の講義
6 回目　顎の成長:顎の成長と顎切り術の適応の講義
7 回目　頸部郭清の講義
8 回目　顎関節の運動:顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義及び実習
9 回目　摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造及び機能の講義
10 回目　頭頸部領域の画像解剖
11-12 回目　神経ブロック:三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの遺体実習
13-15 回目　唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遺体実習
16-18 回目　頸部郭清の遺体実習
19-21 回目　側頭下窩・顎関節周辺の遺体実習
22-24 回目　摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造の遺体実習
25-30 回目　臨床解剖学的に頭蓋骨を観る(1)～(2)

キーワード	マルチンの骨計測、神経ブロック、術式、緊急時の蘇生術、顎関節
教科書・教材・参考書	教科書等：歯科学生のための臨床解剖学ノート（教室作成編）、担当教員による配付資料 参考書：口腔解剖学全5巻（上條雍彦）等
成績評価の方法・基準等	課題レポートの評価に加えて、骨学実習や遺体実習への取り組みと理解度について総合的に評価を行い、成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。
受講要件(履修条件)	講義・実習には毎回出席し、ノートや記録を取ること。2年次の解剖学で修得した知識について復習して、遺体実習に望むこと。質問は講義実習中に随時受け付けるがオフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分に予習を行っておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・森田幸子／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・井村英人／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・山田朋弘／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・鳥巣　哲朗／歯科医師として大学病院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。 ・久松　徳子／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・角　美佐／歯科医師として大学病院での実務経験／大学病院での実務経験を基に講義を行う。 ・倉田眞治／歯科医師として大学病院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。 ・小山田　常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に実習指導を行う。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	9	29	火	1～3	臨床解剖学の目的と意義ならびにスケジュール紹介	小山田常一	講義室6A
4～6回	10	6	火	1	全身管理 循環器の確保、気道確保の講義	井村英人	講義室6A
				2	唾液腺等の切除 唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の適応と方法の講義	井村英人	講義室6A
				3	顎の成長 顎の成長と顎切り術の適応の講義	森田幸子	講義室6A
7～9回	10	13	火	1	頸部郭清の講義	山田朋弘	講義室6A
				2	顎関節の運動 顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義	鳥巣哲朗	講義室6A
				3	摂食・嚥下障害 摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造及び機能の講義	久松徳子	講義室6A
10～12回	10	20	火	1	頭頸部領域の画像解剖	角美佐	講義室6A
				2～3	神経ブロック 三叉神経等の神経ブロックの遺体実習	倉田眞治 小山田常一	解剖実習室(医)
13～15回	10	27	火	1～3	唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遺体実習	井村英人 小山田常一	解剖実習室(医)
16～18回	11	10	火	1～3	頸部郭清の遺体実習	山田朋弘 小山田常一	解剖実習室(医)
19～21回	11	17	火	1～3	側頭下窩・顎関節周辺の遺体実習 (顎動脈の枝、下顎神経の枝、舌骨上筋群)	鳥巣哲朗 小山田常一	解剖実習室(医)
22～24回	11	24	火	1～3	摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学的構造の遺体実習 (舌・咽頭・喉頭の剖査)	小山田常一	解剖実習室(医)
25～27回	12	1	火	1～3	臨床解剖学的に頭蓋骨を観る(1) 下顎骨を含む頭蓋骨を臨床的意義を考慮しながら解剖学的に確認する	小山田常一	解剖実習室(歯)
28～30回	12	8	火	1～3	臨床解剖学的に頭蓋骨を観る(2) 下顎骨を含む頭蓋骨を臨床的意義を考慮しながら解剖学的に確認する	小山田常一	解剖実習室(歯)

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 月・3	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054626 DNGD33551990 スポーツ歯学/(Sports Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 入江浩一郎 / iriko@nagasaki-u.ac.jp /口腔保健学教室 /095-819-7653(内 7662)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	入江浩一郎、鎌田幸治、原 昌士、田中靖彦(タナカ・デンタル・クリニック)、上野俊明(明海大学)		

授業の概要
歯と口腔の健康管理、顎口腔領域におけるスポーツ障害の予防、安全対策に対する知識を身につける。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科医学領域からスポーツ支援のあり方を理解するために、歯と口腔の健康管理、顎口腔領域におけるスポーツ障害の予防、安全対策の知識を身につける。

個別行動目標 SBOs:
スポーツのためのデンタルチェックを説明できる。
スポーツ傷害およびその安全対策を説明できる。
マウスガードの目的と効果を説明できる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
B1-②
E-2-4)-(2)-①
D1-1-③

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)
スライドを用いた講義

授業内容

1 回目 スポーツ歯科医学の概要
2 回目 スポーツ歯学の実際
3 回目 顎顔面領域のスポーツ傷害
4 回目 スポーツのためのデンタルチェック、咬合と全身の関わり
5 回目 マウスガードについて

キーワード	スポーツ歯学
教科書・教材・参考書	要説 スポーツ歯科医学第2版(医学情報社)
成績評価の方法・基準等	筆記試験またはレポートで評価する。
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	• 入江浩一郎／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院におけるスポーツ歯科治療の経験を元に、スポーツ歯学に関する講義を実施する。 • 鎌田幸治／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における補綴治療の経験を元に、スポーツ歯学に関する講義を実施する。 • 原 昌士／長崎大学病院における診療実務経験／大学病院における口腔外科の経験を元に、スポーツ歯学に関する講義を実施する。

日程表(スポーツ歯学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	28	月	3	スポーツ歯科医学の概要	上野	講義室6A
2回	10	5	月	3	スポーツ歯学の実際	田中	講義室6A
3回	10	19	月	3	顎顔面領域のスポーツ傷害	原	講義室6A
4回	10	26	月	3	スポーツのためのデンタルチェック、咬合と全身の関わり	鎌田	講義室6A
5回	11	2	月	3	マウスガードについて	入江	講義室6A

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 月・3	必修選択 必修	単位数 (19)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25054633 DNGD33801992 総合歯科学Ⅰ/(Integrative dentistry Ⅰ)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 統合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	永田康浩, 筑波隆幸, 小山田常一, 松下祐樹, 中村 渉, 伊藤公成, 片瀬直樹, 内藤真理子, 渡邊郁哉		

授業の概要

基礎系講義が一通り終了し, 臨床系講義もほぼ終了した時点で,

1) これまでの復習とまとめを歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準と関連づけて整理する.
2) 臨床実習に向けての知識の整理を行う
3) 医歯薬保の各学科と共修を PBL 形式で行うことにより、医療の中の歯科を認識する。

授業到達目標 【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

臨床実習に必要な基礎系及び臨床系知識を整理する. A～E 領域全ての範囲

個別行動目標 SBOs:

歯学教育コアカリキュラムを理解する
CBT の仕組みについて理解する
歯科医師国家試験出題基準を理解する

対応するディプロマポリシー

DP1 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義, グループ学習

授業内容

1 回目: 高学年次共修授業(医歯薬保)
2 回目: 高学年次共修授業(医歯薬保)
3 回目: 基礎系歯科学講義(薬理)
4 回目: 基礎系歯科学講義(解剖)
5 回目: 基礎系歯科学講義(組織)
6 回目: 基礎系歯科学講義(生理)
7 回目: 基礎系歯科学講義(生化)
8 回目: 基礎系歯科学講義(病理)
9 回目: 基礎系歯科学講義(細菌)
10 回目: 基礎系歯科学講義(理工)

キーワード	多職種連携, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム, 共用試験, 歯科医師国家試験出題基準
教科書・教材・参考書	
成績評価の方法・基準等	課題の提出, 授業中の小テスト, 出席状況などを総合的に評価する
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	詳細は, 授業開始時に説明の予定。講義順が入れ替わることがあるため注意すること。
実務経験のある教員による授業科目	永田康浩／大学病院において現役医師として医療行為を行う／大学病院に勤務しつつ地域包括ケア教育センター長として多職種協働を教授している。

日程表(総合歯科学Ⅰ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	19	月	V	高学年次共修授業(医歯薬保)	永田	講義室3A他
2回	10	26	月	V	高学年次共修授業(医歯薬保)	永田	講義室3A他
3回	11	30	月	3	基礎系歯科学講義(薬理)	筑波	講義室6A
4回	12	7	月	3	基礎系歯科学講義(解剖)	小山田	講義室6A
5回	12	14	月	3	基礎系歯科学講義(組織)	森石	講義室6A
6回	12	21	月	3	基礎系歯科学講義(生理)	中村	講義室6A
7回	1	4	月	3	基礎系歯科学講義(生化)	伊藤	講義室6A
8回	1	18	月	3	基礎系歯科学講義(病理)　※ 病理組織像を用いた演習の実施	永野	実習室5B
9回	1	25	月	3	基礎系歯科学講義(細菌)	内藤	講義室6A
10回	2	1	月	3	基礎系歯科学講義(理工)	渡邊	講義室6A

※　１回目及び２回目は、医歯薬保の共修授業（90分）を実施します。

専門教養科目

（1）長崎大学歯学部グローカルインターンシップ・プログラム（2年）・・・・・300
（2）実践臨床歯科英会話（4年）・・・・・304

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 火・7～8	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25094901 DNGD11062098 実践臨床歯科英会話/(Chair-side Dental English Communication)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)		科目分類 専門教養科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp/生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド・アリレザ、David Atwood (非常勤講師)、		

授業の概要
基礎的な臨床歯科英会話の能力を身につける。歯科の各診療科で行われる診断や治療内容について、その専門歯科的な英語表現を習得し、シミュレーションに応じて患者にわかりやすく説明する。また、患者とのよりよいコミュニケーションを図るための日常会話を組み込み、会話を重点に置いた実践的な英会話レッスンを行う。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科英語用語をマスターする

個別行動目標 SBOs:
外国人患者に歯科に関する診査と診断、治療内容について英語で説明できるようになる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
該当なし

対応するディプロマポリシー
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各種歯科診療科のトピックスに合わせて、実践の英会話を外国人講師と行う。

授業内容
1 回目: Orientation: Overview the class schedule, grading, goals, and objectives for the course, introduce yourself
Introduction to Web class and CALL system (check your log-in/password)
2 回目: Lesson 1. First Visit (初診)
3 回目: Lesson 2. Endodontics and Operative Dentistry (保存処置)
4 回目: Lesson 3. Periodontal Treatment (歯周処置)
5 回目: Lesson 4. Prosthodontic Treatments Using Crowns and Bridges (クラウン・ブリッジによる補綴処置)
6 回目: Lesson 5. Implant Therapy (インプラント治療について)
7 回目: Lesson 6. Removable Prosthodontic Treatment (可撤性義歯による処置)
8 回目: Lesson 7. Preventive Dentistry (歯科予防処置)
9 回目: Lesson 8. Treatment for Children (小児への処置)
10 回目: Lesson 9. Orthodontic Treatment (矯正処置)
11 回目: Lesson 10. Esthetic Dentistry (審美歯科)
12 回目: Lesson 11. Temporomandibular Joint Disorders (顎関節症)
13 回目: Lesson 12. Dysphagia Rehabilitation (摂食・嚥下リハビリテーション)
14 回目: Lesson 13. Special Dental Treatment (特殊な歯科処置)
15 回目: Lesson 14. Oral Surgical Treatment and Dental Anesthesia (口腔外科と歯科麻酔処置)

キーワード	歯科英単語、歯科英会話
教科書・教材・参考書	チェアーサイドの臨床歯科英会話, 加藤有三監修, 医歯薬出版 補助教材ハンドアウト
成績評価の方法・基準等	筆記試験 (毎回の小テスト)、英語での口頭試問、課題レポートの総合評価。定期試験時には、筆記試験ならびに各自、英語でのファイナルスピーチを行う。追試験 (特別な理由がある場合のみ) と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	２/３以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	歯科英語表現の基礎知識を習得する/日常英会話と組み合させて、外国人患者に英語で歯科診療について説明できるようになる。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表(実践臨床歯科英会話)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	火	7～8	Orientation: Overview the class schedule, grading, goals, and objectives for the course, introduce yourself Introduction to Web class and CALL system (check your log-in/password)	David Atwood , Valanczhad	講義室6A
2回	10	6	火	7～8	Lesson 1. First Visit （初診）	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
3回	10	13	火	7～8	Lesson 2. Endodontics and Operative Dentistry (保存処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
4回	10	20	火	7～8	Lesson 3. Periodontal Treatment (歯周処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
5回	10	27	火	7～8	Lesson 4. Prosthodontic Treatments Using Crowns and Bridges (クラウン・ブリッジによる補綴処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
6回	11	10	火	7～8	Lesson 5. Implant Therapy (インプラント治療について)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
7回	11	17	火	7～8	Lesson 6. Removable Prosthodontic Treatment (可撤性義歯による処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
8回	11	24	火	7～8	Lesson 7. Preventive Dentistry (歯科予防処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
9回	12	1	火	7～8	Lesson 8. Treatment for an Infant (小児への処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
10回	12	8	火	7～8	Lesson 9. Orthodontic Treatment (矯正処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
11回	12	15	火	7～8	Lesson 10. Esthetic Dentistry (審美歯科)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
12回	12	22	火	7～8	Lesson 11. Temporomandibular Joint Disorders (顎関節症)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
13回	1	5	火	7～8	Lesson 12. Dysphagia Rehabilitation (摂食・嚥下リハビリテーション)	David Atwood , Valanczhad	講義室6A
14回	1	12	火	7～8	Lesson 13. Special Dental Treatment (特殊な歯科処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A
15回	1	26	火	7～8	Lesson 14. Oral Surgical Treatment and Dental Anesthesia (口腔外科と歯科麻酔処置)	David Atwood , Valanezhad	講義室6A

研究科目（3 年次生、4 年次生、5 年次生、6 年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論　(3 年)・・・・・・・・・・・・ 313
基礎歯学研究　(3・4 年)・・・・・・・・・・・・315
臨床歯学研究概論　(4 年)・・・・・・・・・・・・ 317
歯学研究　(5・6 年)・・・・・・・・・・・・320

年度 2026 学期 通年	曜日・校時 3 年次/金・6～8 、 4 年次/月・7～8	必修選択　選択	単位数 5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104902 DNDR33451993 基礎歯学研究/(Basic Dental Reseach)		
対象年次 3 年次、4 年次	講義形態　実験形式	教室　各基礎系研究室	
対象学生(クラス等)　歯学研究コース		科目分類　研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員 (オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、 佐藤啓子、小野寺貴恵、		

授業の概要
配属先の基礎系研究室で研究を行う。積極的に活用して，歯学の最先端の研究活動に参加する機会とすること。
指導の一貫で，海外大学研究施設におけるフィールドワークや講義の聴講を実施することがある。

授業到達目標
一般目標 GIO:
配属先の基礎歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加する。
個別行動目標 SBOs:
配属先の基礎系研究室で歯学研究活動を行うことができる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-8-1)

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
RE:科学的探究
C-2　探究と解決能力

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
各基礎系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。

授業内容
○ 3年次と4年次で実施日が以下のとおり異なるので留意すること。
3年次:前後期の金曜日 6～8 校時(基礎歯学研究概論受講後に開始)
4年次:前後期の月曜日 7～8 校時
※実験など内容によっては回数や時間数が変更になる場合もある。
○ 各コース内容に関しては次項の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。

(コース)
1.顎顔面解剖学研究:形質人類学における歯の形態学的アプローチについて学習する。
2.硬組織発生再生学:発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨の発生、再生、がんに関する研究を行う。
3.加齢口腔生理学研究:体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。
4.口腔病理学研究:病理標本の作製実習、臨床症例の病理組織学的検討、疾患の分子生物学的解析を行う。
5.口腔病原微生物学研究:細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定
6.歯科薬理学研究:実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定
7.生体材料学研究:歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定
8.分子腫瘍生物学研究:遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。
9.フロンティア口腔科学研究:細胞生物学・分子生物学的手法、遺伝子改変動物を用いて、免疫・炎症に関する研究を行う予定

教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材
成績評価の方法・基準等	主に発表内容，レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。
受講要件(履修条件)	・学校推薦型選抜者以外で歯学研究コースの履修を希望する者は、2 年次後期の所定の期日までに学部長に履修希望届を提出し、許可を受けなければならない。 ・履修希望届の提出があった者に対して教務委員会が選抜のうえ学部長に推薦し、学部長が許可する。 ・基礎歯学研究概論を受講後に希望する研究室を学務係に申告すること。 研究室によっては人数制限が掛かる場合も有ります。 ・全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。

コース表

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	形質人類学における人骨資料や生体資料からのデータ採取、解析、結果の解釈などについて学習する。 定員は0名の予定	3年次/金6～8 4年次/月7～8	小山田
2	硬組織発生再生学研究	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1～2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は0名の予定		片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1～2名の予定		内藤
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 バラネザハド
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。 定員は1～2名の予定		伊藤 大谷 上野
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。 定員は2名の予定		門脇 佐藤 小野寺

※4年次について、10/19(月)及び10/26(月)は「総合歯科学Ⅰ」を受講すること。

年度 2026 学期 3･4Q	曜日･校時 木･8	必修選択 選択	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25104903 DNDR44041993 臨床歯学研究概論/(The Outline of Clinical Dentistry)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室6A	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田教明、藤田優子、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、平 曜輔、山田朋弘、住田吉慶、角 美佐、倉田眞治、入江 浩一郎		

授業の概要

本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。
臨床歯学研究における配属先研究室を選択する。

授業到達目標　【平成 28 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】A-8-1)

一般目標 GIO:
本大学院の臨床歯学分野の研究内容について理解する。
個別行動目標 SBOs:
本大学院の臨床歯学分野の研究内容を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見･解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各臨床系分野担当教員によるオムニバス講義を行い、各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介する。

授業内容

1 回目 口腔保健学:口腔と全身との関連性を見いだし、実験で機序を解明していく全体の流れについて
2 回目 歯周歯内治療学:歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について概説する
3 回目 小児歯科学:小児歯科における最新の研究トピックスについて
4 回目 口腔インプラント学:インプラントに関わる生物学的研究, 材料学的研究について概説する
5 回目 保存修復学部門:低侵襲性歯冠修復に関わる研究バイオインスパイアードサイエンスについて概説する
6 回目 歯科補綴学:義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究
7 回目 口腔顎顔面外科学:口腔外科疾患のクリニカルクエスチョンとその検証法について概説する
8 回目 先進口腔医療開発学:口腔疾患に対する再生医療のトランスレーショナル研究について概説する
9 回目 口腔診断･情報科学: MR 機能画像を用いた頭頸部病変の解析法および診断法について概説する
10 回目 歯科麻酔学:麻酔の周術期に、呼吸と循環生理の生体内調節機能が破綻すると、どのような病態が起こるかについて
11 回目 歯科矯正学:歯の移動の生物学的･生体力学的メカニズムや顎口腔系の機能と形態について

キーワード	
教科書･教材･参考書	なし
成績評価の方法･基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後 1 週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 2/3 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。

実務経験のある教員による授業科目	・入江　浩一郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・藤田　優子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・吉村　篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・澤瀬　隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・村田　比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・平　曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・山田　朋弘／長崎大学病院における診療業務／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・住田　吉慶／長崎大学病院における診療業務／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・角　美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・倉田　眞治／大学病院における診療経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。 ・吉田　教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を元にした臨床歯学分野の研究内容を講義する。

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	木	8	(先進口腔医療開発学) 新規治療開発に必要な臨床試験／医師主導治験について、当分野で実施している再生医療のトランスレーショナル研究から概説する。	住田	講義室6A
2回	10	8	木	8	(歯周歯内治療学) 歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について概説するとともに、どのような実験を行って発症のメカニズムを明らかにするのか説明する。	吉村	講義室6A
3回	10	15	木	8	(小児歯科学) 当小児歯科学分野で行われている研究の最新のトピックス(基礎的研究，乳歯，疾患，障害に関する臨床研究)について説明する.	藤田	講義室6A
4回	10	22	木	8	(口腔インプラント学) インプラントに関わる生物学的研究，材料学的研究について概説し，今後の実習内容について説明する。	澤瀬	講義室6A
5回	10	29	木	8	(歯科補綴学−保存修復学部門) 低侵襲性歯冠修復に関わる研究バイオインスパイアードサイエンスについて概説する。	平	講義室6A
6回	11	5	木	8	(歯科補綴学) 当教室が行っている義歯用材料の開発、口腔機能に関する研究について紹介し、実習内容を説明します。	村田	講義室6A
7回	11	12	木	8	(口腔顎顔面外科学) 口腔癌や顎骨壊死、顎変形症など口腔外科疾患の診断・治療に関するクリニカルクエスチョンと、それに関する研究について概説する。	山田	講義室6B
8回	11	19	木	8	(口腔保健学) 口腔と全身との関連性について、これまでどのように解明されてきたか、その研究手法について、また当教室の研究内容について概説する。	入江	講義室6A
9回	11	26	木	8	(口腔診断・情報科学) MR機能画像を用いた頭頸部病変の解析法および診断法について概説する。	角	講義室6A
10回	12	3	木	8	(歯科麻酔学) 麻酔の周術期に、呼吸と循環生理の生体内調節機能が破綻すると、どのような病態が起こるかについて説明します。	倉田	講義室6A
11回	12	10	木	8	(歯科矯正学) 歯科矯正学:矯正力により、どのようにして歯が移動するのか？そのメカニズムに関する生物学的・生体力学的アプローチ、顎口腔における機能と形態の関連について当教室の研究を紹介し、今後の実験内容について説明します。	吉田	講義室6A

コース表(歯学研究コース)

(基礎系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	顎顔面領域の形質の小進化について、解剖体資料や人骨資料からのデータ採取、解析、結果の解釈を行う。 定員は0名の予定	5年次/前期:火8 後期:水7 6年次/水7	小山田
2	硬組織発生再生学	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1～2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は0名の予定		片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1～2名の予定		内藤
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 ﾊﾟﾗﾈｻﾞﾊﾄﾞ
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。 定員は1～2名の予定		伊藤 大谷 上野
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ 定員は2名の予定		門脇 佐藤 小野寺

コース表

（臨床系コース）

No.	コース	授業内容	日程	担当者
10	歯科矯正学研究	教員の指導のもと、矯正力による歯の移動や歯根吸収のメカニズムに関する基礎、臨床研究の手法を学ぶ。 定員は2～3名の予定	5年次/前期：火8 後期：水7 6年次/水7	吉田 佛坂 富永 濱中
11	小児歯科学研究	遺伝生化学的実験研究、あるいは小児・障害者を対象とした臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		藤田
12	歯周歯内治療学研究	歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について、どのような方法でそれぞれのリスクを評価するのか学習する。 定員は2～3名程度の予定		吉村 岩下 柳口 坂本
13	口腔インプラント学研究	生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 定員は1～2名の予定		澤瀬 尾立 右藤
14	歯科補綴学研究	当教室が行っている補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究について概説します。これらの中から指導教官とテーマを決め、実験を行います。 定員は2～3名程度の予定		村田 原田 鳥巣
15	先進口腔医療開発学研究	顎骨や粘膜、唾液腺疾患に関する再生医療のトランスレーショナル研究に参加し、医師主導治験を含めた臨床試験の展開方法を学ぶ。 定員は1～2名の予定		住田 井 坂井 Stefan
16	口腔診断・情報科学研究	頭頸部腫瘍を対象に、MR機能画像を用いた臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		角 高木
17	歯科麻酔学研究	教員の指導のもと、実験動物を用いた基礎研究の方法、人での臨床研究の方法、実験で得られた呼吸・循環系の測定値の評価について学ぶ。 定員は2～3名の予定		讃岐 倉田
18	修復学研究（歯科補綴学）	教員の指導のもと、歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。 定員は1名の予定		平 山田 介田 江越
19	口腔顎顔面外科学研究	口腔癌に関する基礎的，臨床的研究 顎変形症等に関する臨床的研究 定員は3名程度の予定		山田
20	口腔保健学研究	口腔と全身との関連性を見いだし、その機序を解明して行く全体の流れについて理解する。 定員は1～2名の予定		入江